

共通教育科目

011001100	種智院学	013001200	宗教音楽B
011002100	仏教入門A	013002100	仏教美術A
011002200	仏教入門B	013002200	仏教美術B
011003100	宗教と福祉A	013003100	密教瞑想A
011003200	宗教と福祉B	013003200	密教瞑想B
011004100	人権思想	013004100	書道A
011005100	自己開発とキャリアデザイン	013004200	書道B
011006100	密教入門A 密教の基礎の基礎を学ぶ	013007100	古文書学A
011006200	密教入門B 密教の基礎の基礎を学ぶ	013007200	古文書学B
011007100	社会福祉入門A	013008100	仏教文学A
011007200	社会福祉入門B	013008200	仏教文学B
011009100	世界の福祉～世界の福祉問題	013009100	日本美術史 1A
011010100	仏教と文化	013009200	日本美術史 1B
011011100	仏教と生命倫理	014051100	インド哲学概論A
011012100	仏教と現代社会	014051200	インド哲学概論B
011013100	仏教と習俗	014052100	日本思想史A
011014100	福祉文化論	014052200	日本思想史B
011015100	ボランティア論	014059100	心理学概論A
011016100	介護入門	014059200	心理学概論B
011018100	高野山学	014060100	社会学概論A
012001100	総合英語A	014060200	社会学概論B
012001200	総合英語B	015001100	寺院運営論
012002100	英会話A	015010100	企業実習
012002200	英会話B	015011100	スポーツ実技 1
012004100	福祉英語 A	015011200	スポーツ実技 2
012004200	福祉英語B	016001100	豊山法儀研究 I
012006100	サンスクリット語 I	016001200	豊山法儀研究 II
012006200	サンスクリット語 II	016001300	豊山法儀研究 III
012006300	サンスクリット語 III	016001400	豊山法儀研究 IV
012006400	サンスクリット語 IV	016002100	豊山教学史 A
012007100	チベット語 I	016002200	豊山教学史 B
012007200	チベット語 II	016003100	智山法儀研究 1A(3A)
012008100	古典漢語 I	016003200	智山法儀研究 1B(3B)
012008200	古典漢語 II	016004100	智山法儀研究 2A(4A)
012009100	フランス語初級	016004200	智山法儀研究 2B(4B)
012010100	ドイツ語初級	016005100	智山教学史 A
012011100	日本語(実践文章論)	016005200	智山教学史 B
013001100	宗教音楽A		

注 意 事 項

※時間割の見方

月 5 …………… 月曜日、5 限目

オ土 6 …………… オンデマンド授業、土曜日、6 限目

その他欄確認 …………… その他欄に集中講義日程記載。1～5 限目で実施

授業内で確認 …………… 実習期間は授業内で決定

コード	履修科目名						(担当教員)
011001100:	種智院学						(佐伯 俊源)
単 位	1	期 別	春前半	学 年	1年次～	時間割	火5

到達目標

本学の「建学の精神」への理解が深まる
各人が本学で学ぶ意義を形成できる

キーワード

綜藝種智院 弘法大師空海 建学の精神

事前・事後学習

事前学習: 特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自事前に調べたことをノートなどにまとめておくことが望ましい。

事後学習: 毎回の授業後に、重要な点や印象深かった点などを文章コメントとして記述して、提出する(出席点として計上する)。

授業内容

学生諸君が所属する種智院大学は、弘法大師空海が設立したわが国最古の庶民教育のための私立学校「綜藝種智院」を源流とする歴史と伝統のある大学である。本講義では、この「種智院」の歴史的由緒と存在意義について理解を深める。

受講生諸君には、自分が所属し勉学に励む母校である本学の独特な建学の精神、歴史的歩み、個性的特徴などについて、しっかりと理解を深めてもらいたい。そして、この講義をきっかけとして種智院大学の学生として誇りを持って、それぞれの学科での学習に邁進してもらいたい。

成績評価方法

平常点(出席を最重視): 70%

受講態度: 30%

課題に対するフィードバック

毎回提出するコメント用紙を、評点の上、最終的に本人に返却する。

授業計画

1. 本学で学ぶ学生へ
2. 学園の歩み
3. 弘法大師空海の生涯1
4. 弘法大師空海の生涯2
5. 真言密教の教え
6. 綜藝種智院式と空海の教育理念
7. 空海と社会福祉
8. 大学での学びと将来への展望

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。担当教員が適宜資料を配付する。

〈参考文献〉 テーマに即して適宜紹介する。

その他

全8回。順番は入れ替わる可能性もあり。
新入年次に履修することが望ましい。

コード	履修科目名						(担当教員)
011002100:	仏教入門A						(今井 浄園)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火3

到達目標

仏教を学ぶための基礎知識を会得して、人に説明することができる。

キーワード

ブッダ(釈尊・世尊・釈迦)、初期仏教、大乘仏教。

事前・事後学習

必ず、予習として教科書を読み、復習として授業中に紹介した先行研究や参考文献を図書館で調べること。

授業内容

仏教の開祖であるブッダの生涯(出生、出家、成道、初転法輪、伝道、入滅涅槃)を通して、初期仏教の根本思想を学びます。そして、釈尊以降の仏教教団の展開、仏教者の生活(戒律)を概観します。次に、初期仏教や部派仏教について説明し、大乘仏教に移行して、それぞれの時代を代表する經典のいくつかを紹介しながら、その仏教經典の内容を概説します。

成績評価方法

- 平常点 20% (出席状況。授業中の態度も評価の対象になります)
- レポート点 20% (締め切りを厳守。その内容を評価します)
- 定期試験 60% (その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 仏教が生まれる以前の古代インド | 9. 仏教教者の生活 —— 戒律とは何か—— |
| 2. 古代インドの宗教世界と仏教の位置づけ | 10. 仏教教団の成立と展開 |
| 3. 釈尊の生涯-1 | 11. 部派仏教の時代 |
| 4. 釈尊の生涯-2 | 12. 大乘仏教運動の始まり |
| 5. 釈尊の生涯-3 | 13. 大乘仏教の經典-1 |
| 6. 釈尊の生涯-4 | 14. 大乘仏教の經典-2 |
| 7. 釈尊の教え-1 (四諦八正道・十二縁起) | 15. まとめ |
| 8. 釈尊の教え-2 (輪廻転生・解脱・涅槃・三法印) | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 佐々木閑 『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』 NHK出版新書 399
 大正大学仏教学科編 『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド篇』 大正大学出版部
 ならびに、講義時に補足のプリントを配布します。
- 《参考文献》 中村 元 他『岩波仏教辞典』第三版 岩波書店
 松尾剛次 『仏教入門』 岩波ジュニア新書 322
 その他、必要に応じて、講義の中で紹介します。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011002200:	仏教入門B						(添野了)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火3

到達目標

- ・空海の生涯において行った社会事業・社会活動が説明できる
- ・空海の思想や真言宗の歴史が理解できる

キーワード

仏教、密教、空海

事前・事後学習

事前：テキスト指定範囲を予習する。登場する人物・時代について下調べをしておく。特に専門用語について学習すること。

事後：特殊な用語について読みを付しておくこと。

授業内容

真言宗の開祖であり、本学の開創者である弘法大師空海の生涯と思想について学ぶ。綜藝種智院の創設・満濃池の修復工事等教育や社会活動、さらに真言宗の歴史についてふれる。また、空海の思想や真言宗の教理とはいかなるものであるのかを解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度による)50%、定期試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体に向けたフィードバックを行う。

授業計画

1. 仏教の伝来①
2. 仏教の伝来②
3. 空海の生涯① 誕生から青年期
4. 空海の生涯② 入唐求法
5. 空海の生涯③ 密教受法
6. 空海の生涯④ 真言宗開創
7. 空海の生涯⑤ 真言宗開創
8. 空海の生涯⑥ 入定
9. 綜藝種智院の創設、満濃池の修復
10. 空海の著作①
11. 空海の著作②
12. 空海の書と梵字
13. 空海の伝説と弘法大師信仰
14. 映画『曼荼羅-若き日の弘法大師・空海』鑑賞
15. 映画『曼荼羅-若き日の弘法大師・空海』鑑賞

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 福田亮成『知識ゼロからの空海入門』 幻冬舎

＜参考文献＞ 頼富本宏『平安のマルチ文化人空海』 NHK出版 2005年

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011003100:	宗教と福祉A						(佐伯 俊源)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	金1

到達目標

世界の諸宗教について理解が深まる
 福祉の諸問題について理解が深まる
 宗教と福祉の連関について理解が深まる

キーワード

宗教 福祉 フライントロフィー 一神教 ユダヤ教 キリスト教 イスラム教

事前・事後学習

事前学習：特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自事前に調べたことをノートなどにまとめておくことが望ましい。

事後学習：毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出する(出席点として計上する)。

授業内容

宗教も福祉も、ともに人間がよりよく生きることを究極の目的とする点で同じ基盤を共有している。その両者はともに人間生活にとって不可欠の要素であると同時に、お互いに密接に関わり合いながら歴史を展開してきた。その具体的な様相を、世界各地の宗教・福祉・社会の状況に応じて理解することを目的としたい。春学期・秋学期は別の講義であるが、連続して受講することが望ましい。

春学期(A)では、世界の宗教を概観した上で、主に西洋の一神教的宗教を取り上げ、その個別的特徴と、その社会救済の思想や実践のあり方について概観したい。

秋学期(B)では、アジア的宗教、特に仏教とその福祉をテーマに取り上げて理解を深める。また時間があれば、神道をはじめとする日本固有の宗教とその福祉についても考えてみたい。

それらをふまえて、諸宗教を横断する形で、人間・社会に関わる諸問題への宗教的関与のあり方について考察を深めたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%

講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 序論 | 9. キリスト教とその福祉① |
| 2. 総論 宗教と福祉 | 10. キリスト教とその福祉② |
| 3. 世界の諸宗教 概観① | 11. キリスト教とその福祉③ |
| 4. 世界の諸宗教 概観② | 12. イスラム教とその福祉① |
| 5. 西洋古典古代思想と福祉 | 13. イスラム教とその福祉② |
| 6. ユダヤ教とその福祉① | 14. イスラム教とその福祉③ |
| 7. ユダヤ教とその福祉② | 15. 総括 |
| 8. ユダヤ教とその福祉③ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業中に資料プリントを適宜配布する。

〈参考文献〉 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

1年次に履修することが望ましい。

コード	履修科目名						(担当教員)
011003200:	宗教と福祉B						(佐伯 俊源)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	金1

到達目標

世界の諸宗教について理解が深まる
 福祉の諸問題について理解が深まる
 宗教と福祉の連関について理解が深まる

キーワード

多神教 パラモン教(ヒンズー教) 仏教 仏陀釈尊の生涯
 その他のアジアの宗教(儒教、道教、神道ほか)

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自事前に調べたことをノートなどにまとめてくることが望ましい。

事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出する(出席点として計上する)。

授業内容

宗教も福祉も、ともに人間がよりよく生きることを究極の目的とする点で同じ基盤を共有している。その両者はともに人間生活にとって不可欠の要素であると同時に、お互いに密接に関わり合いながら歴史を展開してきた。その具体的な様相を、世界各地の宗教・福祉・社会の状況に応じて理解することを目的としたい。春学期・秋学期は別の講義であるが、連続して受講することが望ましい。

春学期(A)では、世界の宗教を概観した上で、主に西洋の一神教的宗教を取り上げ、その個別的特徴と、その社会救済の思想や実践のあり方について概観したい。

秋学期(B)では、アジアの宗教、特に仏教とその福祉をテーマに取り上げて理解を深める。また時間があれば、神道をはじめとする日本固有の宗教とその福祉についても考えてみたい。それらをふまえて、諸宗教を横断する形で、人間・社会に関わる諸問題への宗教的関与のあり方について考察を深めたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
 講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 序論 | 9. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質③ |
| 2. 総論 宗教と福祉 | 10. 仏教の福祉救済思想と実践① |
| 3. 世界の諸宗教と福祉 概観 | 11. 仏教の福祉救済思想と実践② |
| 4. パラモン教とその福祉① | 12. 仏教の福祉救済思想と実践③ |
| 5. パラモン教とその福祉② | 13. 日本の諸宗教とその福祉① |
| 6. パラモン教とその福祉③ | 14. 日本の諸宗教とその福祉② |
| 7. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質① | 15. 総括 |
| 8. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質② | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業中に資料プリントを適宜配布する。

〈参考文献〉 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

1年次に履修することが望ましい。

コード	履修科目名	(担当教員)					
011004100:	人権思想(人間らしく生きるとは)	(田中 和男)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木2

到達目標

「人権」を侵害する(される)ことの問題性を認識する

キーワード

人権、「優」から「日本」へ、仏教の定着、身分差別、市民革命、平等、鎖国と開国、カリタス、自然権、社会問題、福祉国家、水平社、グローバル化、ジェンダー、マイノリティ、子どもの権利、共生社会、国際人権、宗教2世、感染症と人権、ユダヤとパレスチナ

事前・事後学習

日頃、テレビ・新聞などのニュースで日本や世界の動きに注目してください。授業で配布するレジュメの予習や確認をお願いします。授業の際のキーワード確認チェックを完成し、次の授業で提出すること。

授業内容

人が個人として尊重され、個性や幸福を追求することは人権の尊重として憲法で条文化され、日常生活に生かされていることは、皆さんもよく知っているでしょう。江戸時代には士農工商の身分差別がありました。現在18歳以上の選挙権も、1925年に25歳以上の男子のみに保障され、1945年になって20歳以上の男女に認められるようになったのです。現在は当たり前の人権保障は、これまでの人々の努力によってようやく実現できたのです。この授業では、日本と現在の世界に焦点を当てて人権を定着してきた歴史と思想的背景を考えていきます。長いコロナ禍でも様々な人権にかかわる問題を見聞したでしょう。他人事としてではなく自分の問題として考えていただきたいと思います。

成績評価方法

課題レポート：60%（期末にレポートを提出してもらいます）、授業への参加度・平常点：40%（各授業の際の確認チェックなど）

課題に対するフィードバック

毎回授業の終わりにキーワード確認を書いてもらいます。次回、前回のキーワード確認の説明を、授業の冒頭で行います

授業計画

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 人間らしく生きる人権とは何か | 9. 20世紀日本の被差別部落と水平社 |
| 2. 日本の人権の歴史…多様な文化と地域 | 10. 20世紀日本の社会福祉の展開 |
| 3. 日本の前近代社会の身分差別・男女差別 | 11. 日本国憲法と基本的人権の保障 |
| 4. 日本の前近代の差別を批判する思想・仏教 | 12. 21世紀世界・子どもの人権 |
| 5. 西欧でのキリスト教の変化と人権思想 | 13. 福祉国家の思想・理想と現実 |
| 6. 日本の近代と人権思想・学問のススメ | 14. 多文化社会でのマイノリティと人権 |
| 7. 日本の近代と社会問題・貧困・病気の克服 | 15. まとめ…多様性と差異をどう認めようか |
| 8. 日本の近代と男女差別・ジェンダーの問題 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 必要な資料はプリントで配布するので保存しておいてください。授業の前後に見直してください。

〈参考文献〉 その都度、参考文献を指摘します。一般的な参考文献として
 澤野義一・小林直三『テキストブック憲法』法律文化社、

その他

毎回授業の終わりにキーワードの確認や感想などを書いてもらいます。

コード	履修科目名	(担当教員)					
011005100:	自己開発とキャリアデザイン	(川崎 明仁)					
単 位	1	期 別	春後半	学 年	1年次～	時間割	火5

到達目標

- ・「大学を卒業して社会に出て働く」ことの「意義」を理解できる。
- ・「就職とは、自らの職=職業(働きがいのあるもの)を得ることであり、会社や団体といった場(場所)に属することではない」ことを理解できる。
- ・「自分について理解を深めながら、将来の進路を探すための方向性を見出す」ことができる。

キーワード

- ①「体験型学習」 ②「学生生活や将来像」の「プランニング」

事前・事後学習

事前学習:「自分の就きたい仕事、取りたい資格、興味のある業種など」に「普段から」「関心を持ち」、「1日に30分以上は」「必要な情報」を「インターネットなどで検索する」など、「必要な知識の蓄積に努めること」。

事後学習:「各回の授業で得た知識や観点を」「自分の希望する進路に向けて」「どのように活用していくのか」を「(短文でもよいので)文字化しておくこと」。

授業内容

大学は、「学問研究を通じて人間としての成長を実現する場」であると同時に、「実社会に出て職業人として活躍するための知識や技術を養い、社会人としての自立心や覚悟を堅固にし、その資質・素養を培う場」でもある。

そこで、本講では、学生諸君が「将来の就労に向けた基本的な知識や方法論を学ぶ」ことによって、「自己の適性や卒業までの学生生活像、将来の進路を見定める」ことを目標とする。

なお、授業では「グループワークやディスカッションなど、体験的な学習を行う」ので、「受講者の主体的な参加」を求める。

成績評価方法

平常点(出席、授業への参加姿勢、毎回の振り返りレポート):100%

課題に対するフィードバック

「毎回の振り返りレポート」に対する「講評」をもって「フィードバック」とする。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1. オリエンテーション | 5. 自己分析、自己覚知(2)自己PR |
| 2. グループディスカッション: 学生生活、将来像 | 6. キャリア・シミュレーション・プログラム |
| 3. プレゼンテーション: 学生生活・卒業後のプランニング | 7. グループ・ディスカッション: 働くことの意味 |
| 4. 自己分析、自己覚知(1)自分史 | 8. まとめ |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。「プリント」を「配付する」。

《参考文献》 「テーマに即して」、「適宜、紹介する」。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011006100:	密教入門A 「密教の基礎を学ぶ」						(松本 峰哲)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火1

到達目標

専門的な密教関係の学術書に出てくる専門用語を理解できる。

キーワード

密教の歴史、インド密教、チベット密教、中国密教、空海

事前・事後学習

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所テキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。入門の講義ですので予習は不要です。復習にしっかりと時間をかけてください。

授業内容

密教の思想を学び理解する為には、密教特有の専門用語をまず知らなければなりません。本講義では密教の用語解説を中心に、ビデオ等の視聴覚資料も使いながら密教の全体像について優しく概説します。

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。

成績評価方法

定期試験：100%

*出席すべき日数の三分之一以上の欠席がある場合は定期試験の受験を認めません。

課題に対するフィードバック

定期試験は実施後に正解をweb (Microsoft Teams)上に公開します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 密教とは何か
3. 密教の歴史
4. 空海の生涯と真言密教(1)
5. 空海の生涯と真言密教(2)
6. 空海の生涯と真言密教(3)
7. 中国密教(1)
8. 中国密教(2)
9. チベット密教(1)
10. チベット密教(2)
11. 日本密教
12. その他の国の密教の興亡
13. 真言密教の基本教義(1)
14. 真言密教の基本教義(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 頼富本宏『密教とマンダラ』講談社学術文庫

〈参考文献〉 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011006200:	密教入門B 「密教の基礎を学ぶ」						(松本 峰哲)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火1

到達目標

専門的な密教関係の学術書に出てくる専門用語を理解できる。

キーワード

チベット死者の書、仏、密教美術、マンダラ

事前・事後学習

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。入門の講義ですので予習は不要です。復習にしっかりと時間をかけてください。

授業内容

密教の思想を学び理解する為には、密教特有の専門用語をまず知らなければなりません。本講義では密教の用語解説を中心に、ビデオ等の視聴覚資料も使いながら密教の全体像について優しく概説します。

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。

成績評価方法

定期試験：100%

*出席すべき日数の三分の一以上の欠席がある場合は定期試験の受験を認めません。

課題に対するフィードバック

定期試験は実施後に正解をweb (Microsoft Teams)上に公開します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 密教の死生観(1)
3. 密教の死生観(2)
4. 密教の死生観(3)
5. 日本文化と密教(1)
6. 日本文化と密教(2)
7. 密教のほとけ達(1)
8. 密教のほとけ達(2)
9. 密教のほとけ達(3)
10. 密教のほとけ達(4)
11. マンダラとは何か(1)
12. マンダラとは何か(2)
13. マンダラとは何か(3)
14. 現代の密教
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 頼富本宏『密教とマンダラ』講談社学術文庫

〈参考文献〉 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011007100:	社会福祉入門A						(福井 未来)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月4

到達目標

- ・社会福祉の全般的な内容について理解する
- ・社会福祉制度の発展過程について説明できる
- ・福祉的援助について理解する

キーワード

社会福祉制度、社会福祉政策

事前・事後学習

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

授業内容

社会福祉学についての基礎的なことを学ぶ。現代における社会福祉を理解するために、日本と諸外国の社会福祉歴史を踏まえ、福祉政策及び実践の発達過程学ぶ。なお、社会福祉の関連領域とそれらの相互関係について理解する。人を理解すること、援助することについて考えを深める。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・平常点(出席、受講態度等): 50%
- ・課題の提出状況及び内容: 30%
- ・レポート: 20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し、個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会福祉の理念(1)
3. 社会福祉の理念(2)
4. 社会福祉の発達過程(1)
5. 社会福祉の発達過程(2)
6. 社会福祉の発達過程(3)
7. 諸外国の福祉(1)
8. 諸外国の福祉(2)
9. 社会福祉制度を必要とする人々(1)
10. 社会福祉制度を必要とする人々(2)
11. 社会福祉制度の担い手の制度と資格(1)
12. 社会福祉制度の担い手の制度と資格(2)
13. 社会福祉事業を行う組織(1)
14. 社会福祉事業を行う組織(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 必要に応じてプリントを配布する
- 〈参考文献〉 適宜、紹介する

その他

障がい者支援施設の相談支援専門員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名						(担当教員)
011007200:	社会福祉入門B						(福井 未来)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月4

到達目標

- ・社会福祉の基礎的な内容について理解する
- ・社会保障制度と社会福祉制度の体系及び内容について説明できる
- ・福祉的援助について理解する

キーワード

社会福祉制度、社会保障制度

事前・事後学習

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

授業内容

社会福祉学についての基礎的なことを幅広く学ぶ。社会の変化と社会福祉の変容を踏まえ、現代社会における社会福祉体系と諸制度の内容について理解する。なお、社会福祉関連領域との相互関係について理解を深める。人を理解すること、援助することについて考えを深める。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・平常点(出席、受講態度等):50%
- ・課題提出状況および内容:30%
- ・レポート:20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し、個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会福祉の原理と政策
3. 社会保障制度の概念
4. 社会保障制度の歴史
5. 年金保険制度
6. 医療保険制度
7. 労働保険制度
8. 貧困に対する支援
9. 障がい者福祉
10. 児童・家庭福祉
11. 高齢者福祉
12. 権利擁護を支える法制度
13. 刑事司法と福祉
14. 保健医療と福祉
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 必要に応じてプリントを配布する

〈参考文献〉 適宜、紹介する

その他

障がい者支援施設の相談支援専門員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名					(担当教員)	
011009100:	世界の福祉～世界の福祉問題					(向井 啓二)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火2

到達目標

グローバル化した世界の中で人々がどのように暮らし、様々な社会問題の解決に向け努力しているかについて理解できる。その際、社会福祉が問題解決に力を発揮でき、世界中で必要とされていることが理解できる。主に開発途上国が抱えている現状についても理解できる。

キーワード

国連 人権 開発途上国 教育 貧困 子ども 障がい児・者 女性

事前・事後学習

事前：シラバスを見てどのようなことを学ぶのか、下調べしておくこと。その際、世界地図などを国利用してどのような場所にある国なのかなどを確認して欲しい。

事後：授業で習った内容を深めるために、授業時に配布したプリント(その内容や用語など)をインターネットでの検索や新聞(国際面)を通じてより詳しく深く学ぶようになってもらいたい。

授業内容

グローバル化した21世紀。国という枠組みを越えて起こっている問題を知り、その解決のためにどのようなことがなされているかを理解してもらおう。何故、日本が開発途上国をはじめとする国々と協力し、支援をする必要があるのだろうか。その理由は、日本だけでなく世界の人々の幸せを実現させるためのものであるということを理解できるようになってもらいたい。

成績評価方法

平常点：40%（出席は特に重視する。）試験またはレポート：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行い、復習する。

授業計画

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1. イントロダクション——世界はどう分けられているのか?—— | 9. 難民への対応——日本の抱える問題—— |
| 2. 世界の福祉を学ぶことはどういう意味を持つのか? | 10. グローバル化の中の障害者①—CIDH・ICF |
| 3. 世界の人々の人権 | 11. グローバル化の中の障害者②—各種の条約など |
| 4. 開発途上国の貧困問題 | 12. グローバル化の中の女性 |
| 5. 開発途上国の社会問題 | 13. グローバル化の中の高齢者 |
| 6. グローバル化の中の子ども①—児童労働・人身売買 | 14. 途上国が抱える問題に対する特徴的な取り組み |
| 7. グローバル化の中の子ども②—子ども兵士・性搾取 | 15. 国際福祉を行う機関 |
| 8. 教育と福祉——識字率—— | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。（基本的に毎回の授業の際にプリントを配布する。）

《参考文献》 石井光太『絶対貧困』新潮文庫

高橋和志ほか 『国際協力ってなんだろう——現場に生きる開発経済学——』（岩波ジュニア新書）

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011010100:	仏教と文化						(今井 淨圓)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	水4

到達目標

仏教経典について関心を持ち、その内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

ブッダ、スッタニパータ、ダンマパダ、ジャータカ、テラ・ガーター、テリー・ガーター、ミリンダ王の問い、シンガラーへの教え、大般涅槃経、大パリニッバーナ経、遊行経、法華経

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う経典・人名(翻訳三蔵など)・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。

授業内容

さまざまな地域で受容された仏教は、現在では、東南アジア諸国に伝わった上座部系仏教(南伝仏教)と、わが国も含めた東アジアで栄えた大乘仏教(北伝仏教)と、そして、8世紀後半ごろから伝わったチベット仏教の3種類に分類することができる。そこで、本講義では、インド仏教における経典成立史を紹介した上で、パリ仏典と大乘仏教経典の中から、それぞれを代表する経典を選んで、できるだけ平易に、その内容についてを説明したい。また日本仏教との比較も考えてみてほしい。

成績評価方法

平常点:20% (毎回出席をとります。授業態度も評価の対象になります)

レポート点:20% (締め切り期日を厳守。その内容を評価します)

定期試験:60% (その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

1. 歴史上のブッダの生涯と思想
2. 仏教教団の成立について
3. 仏典に使われた言語と訳経史
4. パリ仏典について
5. スッタニパータ(経集)について
6. ダンマパダ(『法句経』)について
7. ジャータカ(本生譚)について
8. テラ・ガーター (『仏弟子の告白』)について
9. テリー・ガーター (『尼僧の告白』)について
10. ミリンダ王の問い(『弥蘭陀王問経』)について
11. シンガラーへの教え(『善生経』・『六方礼経』)について
12. 小乗仏教と大乘仏教の相違点について
13. 大乘の『大般涅槃経』と小乗の『大パリニッバーナ経』・『遊行経』について
14. 『法華経』について
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講義時に、プリント資料を配布します。

〈参考文献〉 中村元 田村芳朗他 『岩波仏教辞典』第三版 岩波書店
 中村元 『仏教経典散策』 角川ソフィア文庫
 廣澤隆之『図説あらすじで読む日本の仏教と経典』青春新書INTELLIGENCE 265【絶版】

その他

個別の経典についての参考資料は、必要に応じて講義時に紹介します。

コード	履修科目名	(担当教員)					
011011100:	仏教と生命倫理	(佐伯 俊源)					
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	金2

到達目標

「いのち」の本質への理解が深まる
 仏教の生命観・死生観への理解が深まる

キーワード

生命倫理 仏教の生命観・カララ 脳死臓器移植問題 出生前診断・人工妊娠中絶

事前・事後学習

事前学習: 特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自事前に調べたことをノートなどにまとめておくことが望ましい。

事後学習: 毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出する(出席点として計上する)。

授業内容

近現代の科学・技術・医療等の進歩に伴って、人類の「いのち(生命)」に対する見方・価値観も大いなる変容を余儀なくされてきた。従来、人びとの生死と密接に関わり、独自の生命観・死生観を提示してきた仏教をはじめとする諸宗教は、そのような生命倫理をめぐる大きな変容の渦中において、いかなる議論を構築し、また今後への展望を提示することができるのであろうか。本講義では、そのような問題関心を念頭に置いて、仏教と生命倫理をめぐる諸問題について理解を深めたい。

授業では、おおむね以下の計画に挙げるように、生命倫理や仏教の生命観について総論的な解説を加えた上で、現代社会における生命倫理上の諸事象(脳死臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断・人工妊娠中絶、等々の諸問題)の中から、各論的に適宜テーマを取り上げて、その現状を紹介しながら、それぞれの問題点や今後の課題について考えてゆく。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など): 50%
 講義内容に関する定期試験もしくはレポート: 50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 序論 | 9. 総論—仏教における生命観② |
| 2. 総論—生命倫理学(バイオエシックス)の動向① | 10. 各論—現代の生命倫理をめぐる具体的事象について① |
| 3. 総論—生命倫理学(バイオエシックス)の動向② | 11. 各論—現代の生命倫理をめぐる具体的事象について② |
| 4. 総論—世界の思想史上の生命観① | 12. 各論—現代の生命倫理をめぐる具体的事象について③ |
| 5. 総論—世界の思想史上の生命観② | 13. 各論—現代の生命倫理をめぐる具体的事象について④ |
| 6. 総論—宗教における生命観① | 14. 各論—その他の諸問題 |
| 7. 総論—宗教における生命観② | 15. 総括 |
| 8. 総論—仏教における生命観① | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業中に資料プリントを適宜配布する。
 〈参考文献〉 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011012100:	仏教と現代社会						(佐伯 俊源)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	金2

到達目標

仏教の現状(歴史推移も含む)について理解が深まる
 仏教の課題(未来への展望も含む)について理解が深まる

キーワード

政教分離 信教の自由 神仏習合 神仏分離 葬祭仏教 祈禱仏教
 観光仏教 福祉対応仏教 エンゲイジド・ブディズム

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自事前に調べたことをノートなどにまとめておくことが望ましい。

事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出する(出席点として計上する)。

授業内容

人類の歴史を振り返れば、宗教はかつて人間社会全般をおおむ制度そのものであったり、そうでなくとも種々レベルの共同体を規制し、人間生活に大きな影響力を及ぼす存在であった。そして、日本において、そうした宗教の中心に位置してきたのは、何といても仏教であった。

しかし、近現代社会になると、政治・経済・科学・倫理、そして宗教などの様々な社会機能が分化していった結果、宗教の果たす役割は前近代に比べて格段に縮小し、その存在自体も見えにくくなったといわれている。このような現代において、仏教が果たすべき役割は一体何なのか。そして、仏教が再生してゆく方途はあるのか。このような大きな問題関心を念頭に置きながら、現代仏教をめぐる諸問題への理解を深めたい。

授業では、おおむね以下の計画に挙げるような、現代において仏教と社会が深い接点を有すると思われる諸事象の中から、適宜テーマを取り上げて、その現状を紹介しながら、現代の仏教が直面する問題や今後の課題について考えてゆく。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
 講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1. 序論 | 9. 祈禱仏教と祈禱寺院② 問題点/今後の展望 |
| 2. 政治と仏教(宗教)の関係～宗教法人法と仏教(宗教)教団① | 10. 観光仏教と観光寺院① 歴史的背景/現状 |
| 3. 政治と仏教(宗教)の関係～宗教法人法と仏教(宗教)教団② | 11. 観光仏教と観光寺院② 問題点/今後の展望 |
| 4. 葬式仏教と檀家寺院① 歴史的背景 | 12. 現代仏教と福祉対応寺院① |
| 5. 葬式仏教と檀家寺院② 現状 | 13. 現代仏教と福祉対応寺院② |
| 6. 葬式仏教と檀家寺院③ 問題点 | 14. エンゲイジド・ブディズムの展開 |
| 7. 葬式仏教と檀家寺院④ 今後の展望 | 15. 総括 |
| 8. 祈禱仏教と祈禱寺院① 歴史的背景/現状 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 授業中に資料プリントを適宜配布する。
 ＜参考文献＞ 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011013100:	仏教と習俗						(今井 浄園)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	水4

到達目標

カレンダーの中に宗教的な祝祭日があることを知り、その意味を正しく伝えることができる。京都における年中行事や仏教文化について関心が持てるようになり、教養として身につく。

キーワード

五節句・人日(じんじつ) (正月七日)・上巳(じょうし) (三月三日)・端午(たんご) (五月五日)・七夕(しちせき) (七月七日)・重陽(ちやうよう) (九月九日)・祇園祭・五山の送り火・お盆・お彼岸 等。

事前・事後学習

年中行事・習俗・宗教行事・仏教要語などについて辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。また授業中に紹介した参考文献について図書館で調べること。

授業内容

古代インドに誕生した仏教は、ユーラシア大陸から東南アジアの諸国まで、世界各地に流伝しました。仏教は、今なお広く信仰を集め、人々の心の拠り所になっています。その過程で、受容した地域固有の風土と融合して、変容しました。日本における神仏習合も、その一つです。仏教は次第に浸透していき、現在では、さまざまな宗派仏教が成立し、わが国の文化の一翼を担っています。例えば、京都の町中を歩いていると、あちらこちらで、有形・無形の仏教文化にふれることができます。その一方で、日本人にとって身近だった仏教も、令和の時代、さまざまな変化に見舞われています。本講義は、仏教における民俗学的なアプローチです。とくに京都の年中行事や祭礼で、仏教とかがわりが深いものを選んで、その歴史的展開と伝統文化について紹介します。

成績評価方法

平常点：20% (毎回出席をとりまします。授業態度も評価の対象にします)
 レポート点：20% (締め切り期日を厳守。その内容を評価します)
 定期試験：60% (その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. イントロダクション ―仏教とは何か― | 9. 七夕について |
| 2. 年中行事とは何か | 10. 重陽について |
| 3. 仏教の開祖・釈尊について ① | 11. 京都の三大祭り ―とくに祇園祭について― |
| 4. 仏教の開祖・釈尊について ② | 12. お盆と五山の送り火について |
| 5. 花まつり(降誕会・仏生会)について | 13. お彼岸について |
| 6. 日本における五節句とは | 14. お正月とひな祭りについて |
| 7. 端午の節句について | 15. まとめ |
| 8. 弘法大師の青葉まつり(誕生会)について | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講義時にプリント資料を配布します。
 〈参考文献〉 その他、必要に応じて、講義の中で紹介します。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
011014100:	福祉文化論					(柴田 綾子)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木2

到達目標

様々な社会問題を題材とした文化作品を通して、社会福祉のあるべき姿について考察を深める。

キーワード

- ・映画、ドラマ、ドキュメントなどの映像もしくは漫画、エッセイ、新聞記事などの資料を用いて、時代によって変わりゆく社会問題を考える。
- ・作者のメッセージに迫り、その作品が生まれた時代背景、社会の価値観等も読み解く。
- ・積極的なディスカッションを通して、自らの価値観について気づきを得ることをねらいとする。

事前・事後学習

「事前学習」社会福祉が取り扱うべき問題に関するニュースや新聞記事に日頃から関心を高めておく。

「事後学習」授業で得た学びや気づきをミニレポートにしてまとめ、毎回授業後に提出する(5～10分程度)

授業内容

少子高齢化時代の到来、不景気による失業者の増加、など福祉への関心は、もはや専門領域のものだけでなく、社会全体のものとなっている。また社会情勢の変化と共に福祉が対象とする問題も幅広くなっており、それに伴い福祉を取り扱う文化作品も年々バリエーションに富んだものとなっている。本授業では毎回そうした文化作品を取り上げて、登場人物の心的風景に迫るだけでなく、その作品が生まれた社会情勢、価値観等との影響についても考察を深める。

成績評価方法

- 1) 平常点(授業における参加態度～積極性～): 45%
- 2) 提出物の提出状況および内容(ミニレポート): 15%
- 3) 期末レポート: 40%

課題に対するフィードバック

必要に応じてミニレポートの内容に講師がコメントを行う。

授業計画

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 知的障害者を取り巻く福祉課題 |
| 2. 地域における福祉課題① | 10. 精神障害者を取り巻く福祉課題 |
| 3. 地域における福祉課題② | 11. 発達障害者を取り巻く福祉課題① |
| 4. 地域における福祉課題③ | 12. 発達障害者を取り巻く福祉課題② |
| 5. 貧困世帯を取り巻く福祉課題 | 13. 医療分野における福祉課題 |
| 6. 児童や家庭を取り巻く福祉課題 | 14. 高齢者を取り巻く福祉課題① |
| 7. 身体障害者を取り巻く福祉課題① | 15. 高齢者を取り巻く福祉課題② |
| 8. 身体障害者を取り巻く福祉課題② | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 毎回、資料・レジュメを配布する。

〈参考文献〉 授業内に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
011015100:	ボランティア論～ボランティアをするために					(脇田 寛史)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

- ・ボランティア活動に必要なスキル(援助方法やレクなど)を身につけ、その社会的意義が理解できる。
- ・ボランティア活動を希望されている方:最低限知っておくべき知識(原理・原則)が理解できる。
- ・ボランティア活動をされている方:現在の活動を客観的に理解し直すことができる。

キーワード

ボランティア活動の原則(自発性、無給性、公益性、創造性) 自己成長性 社会への貢献

事前・事後学習

事前学習: 社会福祉協議会に出向き、ボランティア活動に関する情報を収集する。

事後学習: 授業中に学んだボランティア活動の意義を施設や地域の中でボランティア活動実践(単発のボランティア活動、定期的なボランティア活動)につなげていく。

授業内容

(ボランティアに関するご自身の考え、時には体験を語ることを中心に)社会における様々な課題に取り組むボランティア活動は、社会に貢献する活動であると同時に自己の能力を開発する機会ともなる。本講義ではそんなボランティア活動を行う際に必要となる基本的知識や理念を学び(基礎編)、地域分野、高齢者分野、障害者分野、児童分野等の現場で求められる活動内容について事例を通して学び(実践編)、
「自分にはどのようなボランティア活動ができるのか、適しているのか」を考える(展開編)

成績評価方法

平常点: 40% (内訳: リフレクションペーパー作成15%、レクリエーション実施15%、課題レポート10%) 定期テストまたはレポート: 60%

課題に対するフィードバック

授業後半にて、フィードバック(各回授業内容のポイントを振り返るリフレクションペーパーの記入)を行う。

授業計画

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 1. ボランティア活動とは(オリエンテーション) | 9. 地域分野でのボランティア実践 |
| 2. ボランティア活動の概念、目的、範囲 | 10. 高齢者分野のボランティア実践 |
| 3. ボランティア活動の沿革(日本におけるボランティア活動の歴史) | 11. 障害者分野のボランティア実践 |
| 4. ボランティア活動の内容(ボランティアの体系、行財政・スキル・課題) | 12. 児童分野のボランティア実践 |
| 5. 社会福祉協議会によるボランティア活動 | 13. 災害時のボランティアの実践 |
| 6. 企業が行うボランティア活動 | 14. ボランティアコーディネーターの役割 |
| 7. NPOによるボランティア活動 | 15. まとめ・ふり返り |
| 8. ボランティア活動の実践 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 各単元に関する講義プリントや資料を配布する。

〈参考文献〉 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編「学生のためのボランティア論」 社会福祉法人大阪ボランティア協会2004年
2024年度および2025年度版 月刊「ボランティア情報」(全国社会福祉協議会)より抜粋予定

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
011016100:	介護入門						(岡下 恵子)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木4

到達目標

介護の理念をもとに「高齢者支援に携わる」事の意味を理解し、基本的知識、技術を通して安全で安心できる支援の実践ができる。

キーワード

安全・安楽、心と身体のしくみ

事前・事後学習

テキスト用教材及び配布資料の活用。配布資料の活用。

授業内容

高齢者を支援することの意味を理論的に考え、身辺介護にかかわる基礎的・初歩的技術を経験する。援助する側と援助される側の演習から、介護実践で重要な意味を持つ、知識、技術の習得、倫理観(心、人としての在り方)などについての認識を深める。

成績評価方法

1.平常点:60% (出席率・受講態度及び協調性) 2.実技試験、筆記試験:20%、3.レポート:20% A4 (30字×40行、2～3枚)レポートテーマ(例)「介護実践の基本として重要な考え態度について」

課題に対するフィードバック

ケア目的の確認、技術の繰り返し、心配りの感性についてコメントします。

授業計画

- | | |
|---|---|
| 1. 講義の進め方のオリエンテーション。福祉・介護とは。基本理念とは。コミュニケーションとは。「説明・ことばかけ」の意義・重要性。 | 9. 手洗い、感染予防の意義・方法と実施
食事介助の意義・方法と実施 |
| 2. 同上 | 10. 同上 |
| 3. 同上 | 11. 保清の意義・方法(清拭・足浴)と実施
衣類着脱の意義・方法と実施 |
| 4. ベッドメイキングの意義・方法と実施 | 12. バイタルサイン・一般状態の観察、意義・方法と実施 |
| 5. 車いす操作・方法と実施(学内および学外) | 13. 現場実習 |
| 6. ボディメカニクス・体位変換 | 14. 現場実習 |
| 7. 同上 | 15. 現場実習 |
| 8. 高齢者疑似体験 | 総括(質問紙テスト 答え合わせと解説) |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 川本編集テキスト用教材・各技術資料教材、VTR・DVD

〈参考文献〉

その他

3回～4回 現場実習(特別養護老人ホームヴィラ向島・ヴィラ向島デイサービスセンター)
土曜日予定

コード	履修科目名						(担当教員)
011018100:	高野山学						(中西 雄泰)
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

弘法大師 空海が開創した高野山を知る

キーワード

生きた宗教とは

事前・事後学習

特になし

授業内容

高野山の概要・歴史・年中行事

成績評価方法

授業内容についてのレポート 100%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを返す

授業計画

1. 高野山の概要
2. 高野山の概要
3. 高野山の年中行事
4. 高野山の年中行事
5. 高野山の年中行事
6. 高野山の年中行事
7. 高野山の歴史
8. 高野山の歴史
9. 高野山の歴史
10. 高野山の歴史
11. 高野山の学道について
12. 高野山の学道について
13. 高野山の学道について
14. 高野山の学道について
15. 高野山の未来とは

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 松長有慶著 「高野山」 岩波新書

《参考文献》

その他

1月28日、29日、30日 実施

コード	履修科目名	(担当教員)					
012001100:	総合英語A 「日米文化の比較」を通して「総合的に学ぶ」英語の「文法・リスニング・読解」	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

「日米文化」の「異同」を「英語で」「理解」・「表現」できる

キーワード

①比較文化(日米) ②「英文法」の「総復習」 ③「リスニング・読解」の「技能練成」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。

事前学習:「テキスト」の「[リスニングを含む]全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

本講では、学生諸君が主に「文法」・「リスニング」・「読解」の「3つの観点」から「英語の全体像を総合的に捉え直す」とともに「日米文化の理解を深める」ことを目標とする。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)の回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 文法①「名詞・代名詞」／長文読解①「桜」 | 9. 長文読解⑥「教育」／問題演習⑥ |
| 2. 問題演習①／文法②「冠詞」 | 10. 文法⑦「過去時制」／長文読解⑦「外来語」／問題演習⑦ |
| 3. 長文読解②「首都東京」／問題演習② | 11. 文法⑧「現在完了」／長文読解⑧「労働」／問題演習⑧ |
| 4. 文法③「to不定詞」／長文読解③「映画」 | 12. 文法⑨「受動態」／長文読解⑨「記念日」／問題演習⑨ |
| 5. 問題演習③／文法④「動名詞」 | 13. 文法⑩「数詞」／長文読解⑩「結婚式」／問題演習⑩ |
| 6. 長文読解④「交通機関」／問題演習④ | 14. 文法⑪「形容詞」／長文読解⑪「結婚」／問題演習⑪ |
| 7. 文法⑤「動詞」／長文読解⑤「広告」 | 15. 文法⑫「副詞」／長文読解⑫「プレゼント」／問題演習⑫ |
| 8. 問題演習⑤／文法⑥「現在時制」 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ チャールズ.L.クラーク他著『文法中心の日米比較』（CD付き）南雲堂

＜参考文献＞ 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012001200:	総合英語B 「日米文化の比較」を通して「総合的に学ぶ」英語の「文法・リスニング・読解」	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

「総合英語A」に「同じ」。

キーワード

「総合英語A」に「同じ」。

事前・事後学習

「総合英語A」に「同じ」。

授業内容

「総合英語A」に「同じ」。

成績評価方法

「総合英語A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「総合英語A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| 1. 文法⑬「進行形」／長文読解⑬「一人っ子」 | 9. 長文読解⑱「飲み物」／問題演習⑱ |
| 2. 問題演習⑬／文法⑭「未来時制」 | 10. 文法⑲「比較」／長文読解⑲「クリスマス」／問題演習⑲ |
| 3. 長文読解⑭「離婚」／問題演習⑭ | 11. 文法⑳「関係詞」／長文読解⑳「年末の集まり」／問題演習⑳ |
| 4. 文法⑮「助動詞」／長文読解⑮「ユーモア」 | 12. 文法㉑「否定」／長文読解㉑「入浴」／問題演習㉑ |
| 5. 問題演習⑮／文法⑯「前置詞」 | 13. 文法㉒「分詞構文」／長文読解㉒「スポーツ」／問題演習㉒ |
| 6. 長文読解⑯「漫画」／問題演習⑯ | 14. 文法㉓「疑問文」／長文読解㉓「塾」／問題演習㉓ |
| 7. 文法⑰「接続詞」／長文読解⑰「宗教」 | 15. 文法㉔「長文読解㉔「シーフード」／問題演習㉔ |
| 8. 問題演習⑰／文法⑱「仮定法」 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞「総合英語A」に「同じ」。

＜参考文献＞「総合英語A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012002100:	英会話A 「ディクテーション・発音記号・英作文」を「活用」した英会話の「実践的演習」	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	水1

到達目標

「様々な状況に即応した」「コミュニケーション」を「英語で」できる

キーワード

①「発音記号」による「正確な発音の習得」 ②「英作文」の「英会話への応用」 ③「様々な場面に即応した」「実践的英会話」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。事前学習:「CDがなくても解答できる」「全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

本講では、「学生諸君」が「英語によるコミュニケーション技能」を「増進できるよう」、「様々な状況」を「想定」して作成されたテキストを使って「ディクテーション(聴き取った英語の正確な書き取り)」、「発音記号に基づいた正確な発音練習」、「英作文(日本語から英語への正確な置き換え)」を中心とした「実践的な英会話演習」を行う。「会話」というと、とかく「聞き覚えや口まねだけで事足りるかのよう」に考えられがちであるが、「相手の発言を正しく理解し、自分の意思を的確に伝える」ためには、「語彙」、「文法」、「作文」といった「一見、会話とあまり関係がないかのように思われがち」な知識の「確立」と「それらを駆使する技能」の「練成」がきわめて重要であることを忘れてはならない。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|--|--------------|
| 1. 「母音」の「正しい発音」:「担当教員自作」の「発音記号のプリント」を使用する。 | 9. 確認の表現 |
| 2. 「子音」の「正しい発音」:「方法」は「第1講に同じ」。 | 10. タクシーに乗る |
| 3. 宿泊の予約 | 11. 機内で |
| 4. 写真を撮る | 12. 空港での出迎え① |
| 5. レストランで | 13. 空港での出迎え② |
| 6. 健康や体調 | 14. 感想を尋ねる① |
| 7. テレビ | 15. 感想を尋ねる② |
| 8. スポーツ | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 金子光茂他著『コミュニケーションの英語チェックブック』南雲堂
 ＜参考文献＞ 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012002200:	英会話B 「ディクテーション・発音記号・英作文」を「活用」した英会話の「実践的演習」	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	水1

到達目標

「英会話A」に「同じ」。

キーワード

「英会話A」に「同じ」。

事前・事後学習

「英会話A」に「同じ」。

授業内容

「英会話A」に「同じ」。

成績評価方法

「英会話A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「英会話A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|------------|------------|
| 1. 忠告する① | 9. プレゼント① |
| 2. 忠告する② | 10. プレゼント② |
| 3. 許可を求める① | 11. ボランティア |
| 4. 許可を求める② | 12. コンピュータ |
| 5. 招待する① | 13. 会議で |
| 6. 招待する② | 14. 職場で |
| 7. ホームステイ① | 15. 去り際の挨拶 |
| 8. ホームステイ② | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 「英会話A」に「同じ」。

＜参考文献＞ 「英会話A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012004100:	福祉英語A 「福祉の現場」で「すぐに使える」英語	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木2

到達目標

「福祉の現場に必要な」「コミュニケーション」を「英語」でできる

キーワード

①「現場ですぐに使える」「福祉英語」 ②「様々な福祉場面」を「想定」 ③「多岐にわたる」「問題演習」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は、「事後学習」時に「再解答できる」よう、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態)」各自でコピーを取っておくこと。

事前学習:「テキスト」の「リスニングを含む」全ての設問に目を通し、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

昨今の日本は、民族・性別・年齢・障害の有無など様々な違いを乗り越えて、人々が等しく心豊かに共生する福祉社会へと成長しつつある。そのため、福祉の現場においても、外国人との交流は、否が応でも、増加の一途を辿っている。

そこで、本講では、「福祉の現場」で想定される「様々な状況」を題材にとり、「対話のディクテーション(聴き取った英語の正確な書き取り)・「重要語彙(主に専門用語)の英訳の確認」・「和文英訳」・「長文読解」・「文法問題」・「英問英答(「英語の問い」に「英語で答える」)」など「多岐にわたる問題演習」を通して、学生諸君が「福祉の現場」で「すぐに使える」「実践的な英語」を「習得する」ことを目標とする。

本講は、「社会福祉学科の学生」を「主な対象」としているが、「福祉に関心のある」「仏教学科の学生の受講」も「歓迎」する。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点(出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む)(30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 日本人の福祉理解度① | 9. ITが福祉で果たす役割① |
| 2. 日本人の福祉理解度② | 10. ITが福祉で果たす役割② |
| 3. 障害者が働くことの意義① | 11. 寝たきり防止策① |
| 4. 障害者が働くことの意義② | 12. 寝たきり防止策② |
| 5. 高齢者の孤独を癒すもの① | 13. 介護職と外国人① |
| 6. 高齢者の孤独を癒すもの② | 14. 介護職と外国人② |
| 7. 疾病外国人の苦勞① | 15. ペット・ロボットと独居高齢者① |
| 8. 疾病外国人の苦勞② | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ ウィリアム.M.バルサモ他著『福祉の英語』(CD付き)金星堂

＜参考文献＞ 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012004200:	福祉英語B 「福祉の現場」で「すぐに使える」英語	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木2

到達目標

「福祉英語A」に「同じ」。

キーワード

「福祉英語A」に「同じ」。

事前・事後学習

「福祉英語A」に「同じ」。

授業内容

「福祉英語A」に「同じ」。

成績評価方法

「福祉英語A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「福祉英語A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. ペット・ロボットと独居高齢者② | 9. ベビーシッターの信頼性② |
| 2. 福祉におけるNPOの活躍① | 10. 世界一の長寿国：日本① |
| 3. 福祉におけるNPOの活躍② | 11. 世界一の長寿国：日本② |
| 4. ホームヘルパーの労働条件① | 12. 高齢化社会への対応① |
| 5. ホームヘルパーの労働条件② | 13. 高齢化社会への対応② |
| 6. 盲導犬と介助犬① | 14. マネキン(ダミー)人形と医療・介護教育① |
| 7. 盲導犬と介助犬② | 15. マネキン(ダミー)人形と医療・介護教育② |
| 8. ベビーシッターの信頼性① | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞「福祉英語A」に「同じ」。

＜参考文献＞「福祉英語A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012006100:	サンスクリット語I「サンスクリット語文法(初級)」	(松本 純子)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次~	時間割	月3

到達目標

サンスクリット語の基本的な文法事項を理解することができる
 サンスクリット語で書かれた簡単な文章を翻訳することができる
 デーヴァナーガリー文字を読むことができる

キーワード

サンスクリット語 デーヴァナーガリー文字 梵語 梵字 インド

事前・事後学習

事前学習 テキスト及び配布資料を読み返し、前回の講義内容を復習しておく。
 事後学習 授業中に出された課題(宿題)を次回の授業までに必ずやってくる。

授業内容

サンスクリット語(梵語)文法を基礎から学ぶ授業です。サンスクリット語はインドの古典語で仏教やインドの宗教文化を理解するためには欠かせない言語です。サンスクリット語の歴史はとても古く、紀元前1200年頃に遡ります。この授業で扱う古典サンスクリット文法は紀元前2世紀から変わることなく現代まで受け継がれているものです。サンスクリット語には複雑な文法規則がたくさんありますが、その中の最も基本的な文法事項を学び、例文を用いた翻訳練習によってサンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけます。また、サンスクリット語の表記に用いられるデーヴァナーガリー文字の読み方も学習します。授業は講義形式で進めます。学習内容に応じて課題を出しますので、実際に自分で課題を解いて理解を深めてください。

成績評価方法

授業への参加態度及び課題への取組30% コメントシート(毎回)30% 定期試験40%

課題に対するフィードバック

課題(宿題)に対するフィードバックとして解答・解説を授業内で行う。

授業計画

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. サンスクリットとは | 9. 名詞概説 |
| 2. デーヴァナーガリー文字(1)母音の文字 | 10. a-語幹名詞 / ā-語幹名詞 |
| 3. デーヴァナーガリー文字(2)子音の文字 | 11. 一致(呼応) |
| 4. デーヴァナーガリー文字(3)母音符号 | 12. ī-語幹名詞 / ū-語幹名詞 |
| 5. デーヴァナーガリー文字(4)連結文字 | 13. i-語幹名詞 / u-語幹名詞 |
| 6. 動詞概説 | 14. 翻訳の手順 |
| 7. 第1種活用動詞パラスマイパダ 直説法現在 / 直説法過去 | 15. 翻訳練習(応用問題) |
| 8. 直説法未来(単純未来) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)
 ※要購入。毎回必ず持つてくること。
 《参考文献》 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
012006200:	サンスクリット語Ⅱ「サンスクリット語文法(初級)」					(松本 純子)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月3

到達目標

サンスクリット語の基本的な文法事項を理解することができる
 サンスクリット語で書かれた簡単な文章を翻訳することができる
 デーヴァナーガリー文字を読むことができる

キーワード

サンスクリット語 デーヴァナーガリー文字 梵語 梵字 インド

事前・事後学習

事前学習 テキスト及び配布資料を読み返し、前回の講義内容を復習しておく。
 事後学習 授業中に出された課題(宿題)を次回の授業までに必ずやってくる。

授業内容

本講義はサンスクリット語I(春学期)の修了者を対象としています。サンスクリット語Iで学習した文法事項を理解したうえで、引き続きサンスクリット語文法の基礎を学び、例文を用いた翻訳練習によってサンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけます。また、サンスクリット語の表記に用いられるデーヴァナーガリー文字の読み方も練習します。授業は講義形式で進めます。学習内容に応じて課題を出しますので、実際に自分で課題を解いて理解を深めてください。

成績評価方法

授業への参加態度及び課題への取組30% コメントシート(毎回)30% 定期試験40%

課題に対するフィードバック

課題(宿題)に対するフィードバックとして解答・解説を授業内で行う。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 基本事項の確認 | 9. 第1種活用動詞アートマネーパダ
直説法現在 / 直説法過去
現在組織の受動活用 |
| 2. 連声法 | |
| 3. 関係詞の用法 | 10. 第1種活用動詞 願望法 / 命令法 |
| 4. 過去受動分詞の用法 | 11. 第2種活用動詞(1)第2・3類 |
| 5. 3人称代名詞tad / 関係代名詞yad | 12. 第2種活用動詞(2)第5・7・8・9類 |
| 6. 疑問代名詞kim / 代名詞的形容詞 / 不定代名詞 | 13. 子音語幹名詞(1語幹の名称詞) |
| 7. 1人称代名詞 / 2人称代名詞 | 14. 名詞合成語 |
| 8. 動作者名詞 / 親族名詞 | 15. 学習事項のまとめ |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)
 ※要購入。毎回必ず持つてくること。
 《参考文献》 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
012006300:	サンスクリット語Ⅲ「サンスクリット語文法(中級)」					(松本 純子)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～	時間割	月4

到達目標

サンスクリット語の文法事項を理解することができる。
サンスクリット語で書かれた文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に指示された翻訳問題を次回の授業までにやってくる。
事後学習 授業で学習した文法事項をテキストで確認し復習しておく。

授業内容

本講義はサンスクリット語I・IIの修了者を対象としています。より専門的にサンスクリット文法を学び、サンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけます。テキスト巻末の「選文」に収められている文章の読解を進めながら、サンスクリット語I・IIで学習した文法事項を復習し、未学習の文法事項について学びます。あらかじめ自分で問題を説いてきていることを前提に授業を進めますので、毎回しっかりと予習することが必要です。

成績評価方法

授業への参加態度及び課題への取組50% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

授業中に読解問題の解答・解説を行う。

授業計画

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| 1. 基本事項の確認 | 9. 単純完了 / 複合完了 |
| 2. サンスクリット語辞典の引き方 | 10. 複合未来 / 条件法 |
| 3. 二重母音語幹名詞 /
子音語幹名詞(2語幹・3語幹の名称詞) | 11. 現在以外の組織の受動活用 |
| 4. 比較法 | 12. 使役活用 |
| 5. 指示代名詞 idam・adas・enad | 13. 強意活用 / 意欲活用 |
| 6. 数詞 | 14. 名称詞由来動詞 |
| 7. 単純アオリスト / 歯擦音アオリスト | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 祈願法 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)
〈参考文献〉 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
012006400:	サンスクリット語Ⅳ「サンスクリット語文法(中級)」						(松本 純子)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～	時間割	月4

到達目標

サンスクリット語の文法事項を理解することができる。
サンスクリット語で書かれた文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に指示された翻訳問題を次回の授業までにやってくる。
事後学習 授業で学習した文法事項をテキストで確認し復習しておく。

授業内容

本講義はサンスクリット語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの修了者を対象としています。より実践的にサンスクリット文法を学び、サンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけます。授業ではテキスト巻末の「選文」に収められている文章の読解を中心に、サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した文法事項を復習しながら、未学習の文法事項について学びます。あらかじめ自分で問題を解いてきていることを前提に授業を進めますので、しっかりと予習することが必要です。

成績評価方法

授業への参加態度及び課題への取組50% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

授業中に読解問題の解答・解説を行う。

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 基本事項の確認 | 9. 女性語幹造語法 |
| 2. 現在分詞 / 未来分詞 | 10. 動詞合成語 / 合成副詞 / 反復合成語 |
| 3. 完了分詞 | 11. 副詞・前置詞 |
| 4. 過去受動分詞 / 過去能動分詞 | 12. 接続詞 |
| 5. 未来受動分詞 | 13. 否定詞 / 問投詞 |
| 6. 不定詞 / 絶対詞 | 14. 韻律 |
| 7. 第1次派生語を作る接尾辞 | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 第2次派生語を作る接尾辞 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』（春秋社）
＜参考文献＞ 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
012007100:	チベット語I					(スダン シャキヤ)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火2

到達目標

チベット語訳の仏典類を読むために必要な基礎文法の知識の獲得

キーワード

チベット大蔵経、文字、古典チベット語、音節の構成、助辞、仏教思想

事前・事後学習

事前学習: 指定の内容を予習すること、事後学習: 講義内容を復習すること

授業内容

仏教においては経典、論書、成就法など膨大な文献が存在しますが、その全てがサンスクリット原典として現存しているわけではありません。幸い、原典が散逸してしまった仏教文献は、『チベット大蔵経』にチベット語訳として数多く収録されています。それらの文献は、仏教研究において看過することのできない貴重な資料であります。

本講義は、古典チベット語の文法の基礎事項を学びます。具体的には、以下の授業計画通りチベット文字の読み方・書き方に始まるチベット語の初等文法を順次学習してゆきます。チベット文字は最初は記号にしか見えません。それが講義を重ねるごとに文字となり、そして単語・文章として認識できるようになります。最終的にはチベット語の文献を和訳できるようになり、仏教を理解するためのツールとなります。

成績評価方法

平常点: 50%

授業態度・理解度: 50%

課題に対するフィードバック

定期的の小テストを実施し、解答の解説を行います。

授業計画

- | | |
|--|---------------|
| 1. イントロダクション
チベット語・チベット文化 | 9. 名詞の格・助辞-4 |
| 2. チベット仏教
仏教研究におけるチベット文献の重要性 チ
ベット語に翻訳された『大蔵経』 | 10. 名詞の格・助辞-5 |
| 3. チベット文字とその書き方 | 11. 名詞の格・助辞-6 |
| 4. チベット文字の構成 綴り方と発音-1 | 12. 代名詞 |
| 5. チベット文字の構成 綴り方と発音-1 | 13. 数詞・否定詞 |
| 6. 名詞の格・助辞-1 | 14. 形容詞・副詞 |
| 7. 名詞の格・助辞-2 | 15. 敬語 文法の総括 |
| 8. 名詞の格・助辞-3 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講義中に資料を配します。

〈参考文献〉 稲葉正就『チベット語古典文法学』法蔵館
高橋尚夫・前田亮道『チベット語初等文法』ノンブル社
山口瑞鳳『概説チベット語文語文典』春秋社
Sarat Chandra Das *Tibetan-English Dictionary* Rinsen Book

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
012007200:	チベット語Ⅱ					(スダン シャキヤ)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火2

到達目標

チベット語に翻訳された仏典類の読解力を養うこと

キーワード

チベット語の基礎文法、チベット語の意味を調べること、文献読解

事前・事後学習

読解するチベット文献を予習し、極力和訳していくこと

授業内容

本講義では、古典チベット語の文法の知識を活かしチベット語訳の仏典類を読解していきます。
[チベット語Ⅰ]に引き続き、初等文法の基礎を学習します。その後、文法事項を確認しながらチベット語の文章を読み解いていきます。文献研究の基礎を構築することにつながるべく、文法書や辞書を駆使し、配布資料に掲載されている読本用の抜粋文献(『般若心経』、『維摩経』、『初会金剛頂経』などのチベット語訳)を和訳しながら丁寧に読み進め、その内容も理解していきます。

成績評価方法

平常点:50%

授業態度・理解度:50%

課題に対するフィードバック

定期的な小テストを実施し、解答の解説を行います。

授業計画

1. イントロダクション チベット語文献 チベット語の辞書 動詞・助動詞-1
2. 動詞・助動詞-2 文法の総括 読解用資料の解説
3. チベット語文献(『般若心経』)の読解-1
4. チベット語文献(『般若心経』)の読解-2
5. チベット語文献(『般若心経』)の読解-3
6. チベット語文献(『般若心経』)の読解-4
7. チベット語文献(『般若心経』)の読解-5
8. チベット語文献(『般若心経』)の読解-6
9. チベット語文(『般若心経』)の読解-7
10. チベット語文(『般若心経』)の読解-8
11. チベット語文献(『維摩経』抜粋)の読解-9
12. チベット語文献(『維摩経』抜粋)の読解-10
13. チベット語文献(『維摩経』抜粋)の読解-11
14. チベット語文献(『初会金剛頂経』抜粋)の読解-12
15. チベット語文献(『初会金剛頂経』抜粋)の読解-13
まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。講義中に適宜資料を配布します。

〈参考文献〉 Sarat Chandra Das *Tibetan-English Dictionary* Rinsen Book
稲葉正就『チベット語古典文法学』法蔵館
高橋尚夫・前田亮道『チベット語初等文法』ノンブル社
山口瑞鳳『概説チベット語文語文典』春秋社

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
012008100:	古典漢語I					(早川 道雄)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木3

到達目標

比較的分かりやすい古典漢語文の読解訓練を通じて、仏教経典・論書の理解に役立てることができる。

キーワード

仏教漢文、経典、論書、古典文法

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業の冒頭に、前回学習したテキストの音読を確認するので、声を出して読みの復習をしていくこと

授業内容

古典漢語とは、古代中国語の文語文を日本語の古典文法で読解する特殊な技術言語である。現代日本では、古典漢語は、主に、中学校・高等学校における「漢文」として、日本の伝統的な古典文を扱う「古文」とともに、国語科の古典を構成している。この授業も、高校修了程度の漢文の学力を前提としている(ただし、事情により中学・高校で漢文を学習しなかったが、古典漢語に関心があるという学生には個別に対応する)。授業の内容は、高校までの漢文教育においては基本的に取り上げられない、仏教系の文章を教材とする。

この古典漢語Iにおいては、担当教員が選択した比較的理解しやすいいくつかの教材を学ぶ。授業の進展の過程で、受講者の理解度に合わせて内容を考慮するので、仏教経典や論書に積極的な関心のある諸君はもちろん、高校までの漢文とは異なる仏教系の漢文に興味があるという諸君も歓迎である。

成績評価方法

平常点50%

定期試験50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体に向けてフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 仏教経典を読む① | 9. 仏教論書を読む② |
| 2. 仏教経典を読む② | 10. 仏教論書を読む③ |
| 3. 仏教経典を読む③ | 11. 仏教論書を読む④ |
| 4. 仏教経典を読む④ | 12. 仏教関連漢文を読む① |
| 5. 仏教経典を読む⑤ | 13. 関連関連漢文を読む② |
| 6. 仏教経典を読む⑥ | 14. 仏教関連漢文を読む③ |
| 7. 仏教経典を読む⑦ | 15. 総まとめ |
| 8. 仏教論書を読む① | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講師が準備し、配布する

〈参考文献〉 講師が準備し、配布する

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
012008200:	古典漢語Ⅱ						(早川 道雄)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木3

到達目標

やや難しい古典漢語文の読解訓練を通じて、仏教経典・論書の理解に役立てることができる

キーワード

仏教漢文、経典、論書、古典文法

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業の冒頭に、前回学習したテキストの音読を確認するので、声を出して読みの練習をしていくこと

授業内容

古典漢語とは、古代中国語の文語文を日本語の古典文法で読解する特殊な技術言語である。現代日本では、古典漢語は、主に、中学校・高等学校における「漢文」として、日本の伝統的な古典文を扱う「古文」とともに、国語科の古典を構成している。この授業も、高校修了程度の漢文の学力を前提としている(ただし、事情により中学・高校で漢文を学習しなかったが、古典漢語に関心があるという学生には個別に対応する)。授業の内容は、高校までの漢文教育においては基本的に取り上げられない、仏教系の文章を教材とする。

この古典漢語Ⅱにおいては、担当教員が選択したやや内容的に高度ないくつかの教材を学ぶ。授業の進展の過程で、受講者の理解度に合わせて内容を考慮するので、仏教経典や論書に積極的な関心のある諸君はもちろん、高校までの漢文とは異なる仏教系の漢文に興味があるという諸君も歓迎である。ただし、受講に際しては古典漢語Ⅰの単位を取得しておかなければならない。

成績評価方法

平常点50%

定期試験50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体に向けてのフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 仏教経典を読む① | 9. 論書・復註を読む② |
| 2. 仏教経典を読む② | 10. 論書・復註を読む③ |
| 3. 仏教経典を読む③ | 11. 論書・復註を読む④ |
| 4. 仏教経典を読む④ | 12. 論書・復註を読む⑤ |
| 5. 仏教経典を読む⑤ | 13. 論書・復註を読む⑥ |
| 6. 仏教経典を読む⑥ | 14. 論書・復註を読む⑦ |
| 7. 仏教経典を読む⑦ | 15. 総まとめ |
| 8. 論書・復註を読む① | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講師が準備し、配布する講師が準備し、配布する

〈参考文献〉 講師が準備し、配布する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
012009100:	フランス語初級 フランス語は「英語のいとこ」	(川崎 明仁)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木1

到達目標

「フランス語」の「初級文法を理解し」、「その知識を駆使して」「初級会話ができる」。

キーワード

①フランス語は「英語のいとこ」 ②「初級文法」・「初級会話」 ③「英語との比較を活用した」学習

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。

事前学習:「テキスト」の「全て」の設問に目を通し、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

Bonjour, chers amis! Je m'appelle Akihito Kawasaki.(皆さん、こんにちは川崎明仁です。)
フランス語は「意外に身近な言語」である。例えば、「クレープ(crêpe)」や「アンコール(encore:再び)」は「いずれもフランス語」である。また、言語分類上、フランス語は「英語のいとこ」に相当し、「英語との共通点も多い」ので、本講では「担当者自作」の「英訳プリント」を「併用し」、「英語との比較」により「理解を深めていく」。Voyons à la salle de classe!(では、教室で会いましょう!)

成績評価方法

成績判定は定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)の回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. 日本語に入ったフランス語 アルファベ(アルファベット) 略語 発音の規則 | 9. 会話: プティックで 文法: 形容詞・副詞の比較級、目的補語人称代名詞など |
| 2. 会話: 基本的な挨拶表現 文法: 文法的性の区別(男性名詞と女性名詞)など | 10. 会話: メトロ(地下鉄)に乗る 文法: 形容詞の最上級、代名動詞、非人称構文など |
| 3. 会話: パリ観光 文法: 疑問文(1)、冠詞、規則動詞(er動詞)の現在形など | 11. 会話: レストランで 文法: 規則動詞(ir動詞)の現在形、複合過去形(1)など |
| 4. 会話: ホテル・飲食店で 文法: 形容詞の性・数一致など | 12. 会話: 観光案内所で 文法: 複合過去形(2)、近接未来形・過去形など |
| 5. 会話: 観光の計画・予約 文法: 疑問文(2)、形容詞の位置など | 13. 文法の補足①: 発音記号、所有形容詞、国名・国籍の形容詞など |
| 6. 会話: 銀行で 文法: 否定文、命令文など | 14. 文法の補足②: 比較級・最上級の特殊形、指示代名詞、人称代名詞の強勢形など |
| 7. 会話: カフェで 文法: 部分冠詞、前置詞+定冠詞の縮約など | 15. 文法の補足③: 代名動詞の用法・複合過去形、単純未来形、半過去形など |
| 8. 会話: オペラ座で 文法: 疑問詞疑問文(英語のwh疑問文に相当)など | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 瀬戸秀一他著『街かどのフランス語』一三訂版一朝日出版社

〈参考文献〉 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)		
012010100:	ドイツ語初級	ドイツ語は「英語の兄弟」			(川崎 明仁)		
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木1

到達目標

「ドイツ語」の「初級文法を理解し」、「その知識を駆使して」「初級会話ができる」。

キーワード

①ドイツ語は「英語の兄弟」 ②「初級文法」・「初級会話」 ③「英語との比較を活用した」学習

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問ページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前(記入欄が空白の状態)」「各自でコピーを取っておく」こと。

事前学習:「テキスト」の「全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

Guten Tag! Ich heie Akihito Kawasaki.(こんにちは川崎明仁です。)

ドイツ語は「意外に身近な言語」である。例えば、「アルバイト(Arbeit)」や「テーマ(Thema)」は「いずれもドイツ語」である。また、言語分類上、ドイツ語は「英語の兄弟」に相当し、「英語との共通点も多い」ので、本講では「担当者自作」の「英訳プリント」を「併用し」、「英語との比較」により「理解を深めていく」。Treffen wir uns im Klassenzimmer!(では、教室で会いましょう!)

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)・平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の回数「が」学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|---|---|
| 1. アルファベット(アルファベット)、正書法(綴りと発音の関係)、人名など | 9. 会話:週末の予定 文法:分離・非分離動詞、zu不定詞など |
| 2. 会話:自己紹介 文法:主語人称代名詞、動詞の現在形(1)、語順など | 10. 会話:週末にしたこと 文法:動詞の3基本形、現在完了形など |
| 3. 会話:職業 文法:名詞の性・冠詞、名詞・疑問代名詞の格変化、並列の接続詞など | 11. 会話:昨日したこと 文法:過去形、再帰代名詞と再帰動詞など |
| 4. 会話:趣味 文法:動詞の現在形(2)、命令形、人称代名詞の3格(～に)・4格(～を)など | 12. 文法の補足①:注意すべき動詞の現在形の活用、名詞の性の見分け方など |
| 5. 会話:パン屋で 文法:名詞の複数形、冠詞類、keinとnicht、否定疑問文など | 13. 文法の補足②:指示代名詞、注意すべき名詞の複数形など |
| 6. 会話:道の尋ね方 文法:前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形など | 14. 文法の補足③:所有冠詞、nicht(英語のnotに相当)の位置など |
| 7. 会話:観光 文法:話法の助動詞、未来形、従属の接続詞、不定代名詞など | 15. 文法の補足④:前置詞と代名詞の融合形、副詞的接続詞、形容詞の名詞化など |
| 8. 会話:レストランで 文法:形容詞の格変化、比較級・最上級など | |

テキストおよび参考文献等

◀テキスト▶ 小野寿美子他著『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』朝日出版社

◀参考文献▶ 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
012011100:	日本語(実践文章論)						(千古 利恵子)
単位	2	期別	春学期	学年	1年次~	時間割	水3

到達目標

- ・自身の考えを整理し、自身の言葉で記述できる。
- ・他者の主張を聞き取り、文章化できる。
- ・収集した情報を分類し、各要点を記録できる。
- ・自身の考えを簡潔な言葉で表現し、他者に伝えられる。

キーワード

コミュニケーション力の向上、「聴く・話す・書く・伝達する力」の向上、メモをとる練習、日本語の表現上の礼儀

事前・事後学習

事前：授業テーマを参照し、自分の課題を書いておきましょう。
 事後：コメントカードに、確認した事を書き提出しましょう。

授業内容

社会の一人として生きるには、他者とのコミュニケーションは避けられないことを確します。また、コミュニケーションには、自身の考えを言語化する必要があることを認識します。そのために、授業では、自身の考えを明確に伝える表現について考えます。若者言葉・ネット用語など、時代とともに変化する日本語の語彙を確認します。併せて、自身の文章力を検証し、文章力を向上する方法を考えます。

成績評価方法

口頭発表50% 課題レポート30% コメントカード20%

課題に対するフィードバック

前回の提出課題の内容をふまえ、主として口頭でアドバイスをを行います。

授業計画

1. オリエンテーション：授業のねらいと目標を説明し、日本語の文章への関心を深める
2. 自己紹介文の特徴：「私」を紹介するためのキーワードを見つける
3. 紹介文の発表：発表内容を聞き、自身が思う「私」と比較する
4. 好きな歌詞の紹介：歌詞に使われている言葉と表現の特徴を考える
5. 小説の表現の紹介：有名な文学作品に使われている言葉と表現の特徴を考える
6. スピーチの準備(1)：興味・関心を持っている事柄を5つ書き出し、その理由を記す
7. スピーチの準備(2)：興味・関心のある事柄を1つ決め、具体的な理由文を作成する
8. スピーチの演習：作成した文章を使い、自身の興味・関心を持っている事柄を紹介する
9. 「聴く」練習：問い合わせの電話を聴き、メモをとる練習をする
10. 「報告文」の作成：前回のメモを使い、他者に内容を伝える文章を書く
11. 文章表現の説得力：説得力のある文章について考える
12. 意見文の練習(1)：現代の社会問題について、自身の疑問や意見をまとめる
13. 意見文の練習(2)：前回作成した「意見文」を発表する
14. 意見文の練習(3)：他者の発表を聴き、自身意見文を修正する
15. 言語表現上の礼儀：AI時代に必要な心構えを確認する

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 授業時に、必要な資料を配付します。
- 〈参考文献〉 ・厚生労働省のHP
 ・文化庁HP「国語に関する世論調査」

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
013001100:	宗教音楽A						(新井 弘賢)
単 位	1	期 別	春集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

- ・声明を宗教音楽として捉えられる
- ・宗教音楽としての声明を唱えられる

キーワード

宗教音楽 仏教音楽 真言声明 梵語の声明 漢語の声明

事前・事後学習

- 事前学習：宗教と音楽の関係性について事前に調べておくことが好ましい。
 事後学習：授業時に唱えた声明を復唱することが好ましい。

授業内容

古代・中世における日本音楽の中心的な存在であり、かつ近世音楽にも大きな影響を与え、今日再び注目を得るに至った仏教音楽—声明—のうち、天台声明とともに二大流派である真言声明について、新義派豊山声明を中心に、日本音楽史の流れに沿って、伝承曲と一緒に唱えながら、宗教音楽としての声明について理解を深める。春学期は、声明の歴史・理論・記譜法等の概説から始め、インド・中国で作られた外来曲を学ぶ。

なお、集中講義は8月4日・5日・6日で実施する。

成績評価方法

- 平常点：50%
 演 唱：20%
 筆記試験：30%

課題に対するフィードバック

最終授業時にフィードバックとして総評を行う。

授業計画

1. 世界の宗教音楽
2. 声明の歴史 インド・中国
3. 声明の歴史 日本
4. 声明の音楽理論
5. 声明の記譜法・楽譜
6. 実習<般若心経><三宝礼><如来唄>
7. 実習<四智梵語><大日讃><東方讃>
8. VTR鑑賞<弘法大師正御影供>
9. 実習<四智漢語><心略漢語><西方讃>
10. 実習<如来唄><云何唄>
11. 実習<散華><対揚>
12. 実習<梵音><錫杖>
13. 実習<中曲理趣経>
14. 実習 その他の<梵語讃><漢語讃>
15. 筆記試験

テキストおよび参考文献等

- <テキスト> 授業の時にテキストを配布する。
 <参考文献> 『仏教音楽』音楽之友社 1972年 大山公淳著『仏教音楽と声明』1959年
 『日本音楽の流れと理論』NHK邦楽技能者育成会 2000年
 『声明大系レコードと解説』法蔵館 1983年

その他

8月4日、5日、6日実施

コード	履修科目名						(担当教員)
013001200:	宗教音楽B						(新井 弘賢)
単 位	1	期 別	秋集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

- ・声明を宗教音楽として捉えられる
- ・宗教音楽としての声明を唱えられる

キーワード

宗教音楽 仏教音楽 真言声明 日本語の声明

事前・事後学習

- 事前学習：宗教と音楽の関係性について事前に調べておくことが好ましい。
 事後学習：授業時に唱えた声明を復唱することが好ましい。

授業内容

秋学期では、日本で作られた声明曲<讃歎>、<教化>、<和讃>、<伽陀>等の仏教歌謡や、漢文訓読体の読み声明曲<祭文>や<表白>、そして<説草>や<論義>、さらにわが国の語り物音楽の源流となった<講式>を学ぶ。また、今日における声明の再評価、再生について声明公演や現代音楽としての創作(新作)声明を通じて考える。
 なお、集中講義は1月28日・29日・30日で実施する。

成績評価方法

- 平常点：50%
 演 唱：20%
 筆記試験：30%

課題に対するフィードバック

最終授業時にフィードバックとして総評を行う。

授業計画

1. 春学期の総復習
2. 声明の現代的受容とその意義
3. 漢文訓読―読み声明―<祭文>
4. 漢文訓読―読み声明―<表白>
5. 日本語による初期の歌謡<舍利讃歎>
6. 即興歌謡<教化>
7. 長編歌謡<和讃>
8. VTR鑑賞<大般若転読会>
9. 講経と論義<大般若><報恩講>
10. 朗詠風歌謡<伽陀>
11. 訓読節付による読経<仏遺教経>
12. 日本の語り物音楽の源流<講式>
13. 釈尊の入滅を語る明恵作<四座講式>
14. 懺悔礼仏の法<金胎唱礼>
15. 筆記試験

テキストおよび参考文献等

- <テキスト> 授業のときにテキストを配布。
 <参考文献> 『仏教音楽』音楽之友社 1972年
 大山公淳著『仏教音楽と声明』1959年
 『日本音楽の流れと理論』NHK邦楽技能者育成会 2000年
 『声明大系レコードと解説』法蔵館 1983年

その他

1月28日、29日、30日実施

コード	履修科目名					(担当教員)	
013002100:	仏教美術A～装飾写経の制作					(中村 幸子)	
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	金3

到達目標

般若心経の装飾写経を一枚作りあげられる

キーワード

装飾写経・創作・自心仏との出会い・日本画基礎

事前・事後学習

事前学習 図書館で常に美術全集等を眺めること、あるいは展覧会情報を調べ、博物館、社寺などに直接、足を運んで自らの鑑識眼を養い、仏教世界観の表現を自らの作品に具現させる。事後学習 完成した作品を客観的に見ることにより自らの足りないところを認識し、次なるステップへの足がかりとする。

授業内容

現代は自らの手で「もの」を作るという機会が少なくなっている。本講義では写経を通して自らの仏教世界観を深めると同時に様々な色や形によって荘厳することを学ぶ。写経とは本来、願い事を叶えてもらうために行うものではなく、現代を生きる自分自身の祈りの形を具現することに意味がある。そこには必ず新たな自分を見出すことが出来る。絵を描く事、字を書く事が苦手な方も心配なく、是非新たな自分との出会いを求めて作品に臨むことが望ましい。画材料にかかる費用は、各自の予算に応じて作品を選ぶ。

成績評価方法

平常点：50%（欠席すると講義内容についてこれなくなります。）作品の完成度：50%（額装が出来るように完成度を高めてください。）

課題に対するフィードバック

作品完成時に批評する。各自の作品には表面的な技術を問うのではなく、今の自分の心を表現しているものであり、次なる心のステップへの足がかりとなる作品であることを目標としたい。

授業計画

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1. 講義の目的と趣旨 | 9. A)般若心経書写 B)同上 |
| 2. 各自の予算に応じた作品を選ぶ A)色鉛筆コース B)日本画コース | 10. A)仕上げ(金箔貼り付け等)完成 額に入れる B)花鳥画に彩色 |
| 3. 各コースを選んで作業に入る A)般若心経下絵に色鉛筆で彩色 B)和紙に罫線を引く練習 | 11. A)十二支守り本尊を選ぶ B)同上 |
| 4. A)同上 B)和紙に罫線を引いた後、花鳥画の手本を書写 | 12. A)色鉛筆で彩色 B)同上 |
| 5. A)同上 B)同上 | 13. A)同上 B)同上 |
| 6. A)同上 B)和紙全体に地塗り彩色 | 14. A)同上 B)装飾の仕上げ(金砂子の貼り付け等) |
| 7. A)同上 B)同上 | 15. A)完成 額装 B)完成 額装 |
| 8. A)般若心経書写 B)本紙の裏打ち、パネル貼り | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 制作用下絵等是用意されたものの中から選ぶ。あるいは自身の描きたいものを描くのも可能。

＜参考文献＞ 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

教材費に1,000～2,000円程度必要です。額縁代に1,000～3,000円程度必要です。

コード	履修科目名						(担当教員)
013002200:	仏教美術B～装飾写経の種々相						(中村 幸子)
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	金3

到達目標

装飾写経(一字蓮台経)、折本装写経、卷子本写経(理趣経、阿弥陀経等)
扇子の制作。

キーワード

装飾写経、理趣経、観音経、阿弥陀経、扇面写経。

事前・事後学習

事前学習 他の講義で学んだ仏教教理をしっかり身につけ、何を表現したいのかを確認し、それを基本に作品を選ぶ

事後学習 他の学生の作品も絶えず観察して、独自の宗教観、色彩感を身につける。

授業内容

装飾写経には種々の形式があるので、各自で好みに合ったものを選ぶ。また春学期仏教美術Aで完成できなかった作品を持っている者は継続して完成させる。

成績評価方法

平常点：50%（春学期に十分な技術を習得しておくことが重要。）作品の完成度：50%（各自の創造力が重要。）

課題に対するフィードバック

作品完成時にコメントする。あくまでも自らの宗教観と布教への視点を見出すことを念頭に置く。

授業計画

1. 制作テーマを決める。(制作計画表を作る。図書館その他で調べる)仏教美術Aの制作途中にあるものは継続して完成させる。
2. 各自のテーマにあわせて作業に入る(A・Bのコースを選ぶ) A)制作途中の継続 B)新たな作品の制作過程表をつくり、提出する。
3. A)同上 B)教材、資料の準備。
4. A)同上 B)下絵の書写
5. A)同上(なるべく完成させること) B)下絵の書写
6. A)新しい作品のテーマを決める。講義最終日に間に合うような作品を選ぶ。 B)下絵の書写
7. A)制作過程表を提出 B)下絵の書写
8. A)教材、資料の準備(色鉛筆でも可能) B)下絵書写
9. A)下絵の書写 B)下絵書写完成後、和紙を染める
10. A)下絵の書写 B)和紙を染める
11. A)下絵に彩色 B)本紙のパネル貼り
12. A)下絵に彩色 B)顔料で彩色
13. A)下絵の彩色 B)彩色
14. A)写経 B)写経
15. A)写経完成 B)写経完成

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 用意されたものを選ぶか、自ら資料を持ち込むことも可能。

〈参考文献〉 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

受講登録に際して必ず仏教美術Aを受講しておくことが望ましい。授業計画はあくまでも目安。各自の制作の進め方には遅速があるので、各自で自覚して制作に臨むこと。作品の表具、額装などには費用がかかるので計画的に作品を選ぶこと。

コード	履修科目名						(担当教員)
013003100:	密教瞑想A～阿字観入門						(北尾 隆心)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木3

到達目標

真言密教の修行方法が密教瞑想であることを理解した上で、密教瞑想の集大成である阿字観を実際に体感する。

キーワード

事相、密教瞑想、月輪観、阿息観、阿字観、坐法、呼吸法

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み、また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たこと感想を書き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらいたい。修法ノートは、随時、閲覧、提出してもらいたい。

授業内容

真言密教は思想だけではどうにもならないのであり、それに基づいた実践行法を実際に行うことによってこそ真言密教独自の思想が明確に理解できるように構築されている。

古くは思想を「教相(きょうそう)」と云い、実践行法を「事相(じそう)」と呼び、教相と事相とは車の両輪、鳥の両翼であると喩えて、どちらも欠けることなく必要であることを明確に説き示してきたのであります。

本講では、真言密教の実践行法、事相の中核である密教瞑想の思想(観法)を解き明かすと共に、誰でも行うことが可能なように創意工夫された最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立された「阿字観」の思想を理解した上で「阿字観」を体感することにより、真言密教、そして、仏そのものを味わっていただくことをことを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. ノートの作成方法
密教の目指すところ | 9. 阿字観の系譜(金剛界の阿字観・胎藏界の阿字観) |
| 2. 密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 10. 阿字観の本尊について |
| 3. 密教の修行方法① | 11. 阿字観を実習するための解説① |
| 4. 密教の修行方法② | 12. 阿字観を実習するための解説② |
| 5. 密教瞑想の実習① | 13. 阿字観の実習① |
| 6. 密教瞑想の実習② | 14. 阿字観の実習② |
| 7. 密教の本尊観 | 15. 阿字観の実習③ |
| 8. 阿字観について | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 北尾隆心「阿字観の系譜 序論」(『密教学』第59号)。
適宜、プリント配布。

＜参考文献＞ 北尾隆心著『密教瞑想入門—阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。
適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
013003200:	密教瞑想B～第二段階・第三段階へと進化した阿字観	(北尾 隆心)					
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木3

到達目標

阿字観とは誰でもが行うことのできる密教瞑想法であり、第一段階の阿字観から第二、第三段階へと進化した阿字観を行うことにより、密教瞑想の深遠さを理解する。

キーワード

密教瞑想、阿字観、本尊、呼吸法、深秘釈、広観、斂観、字輪観

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み。また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たこと感想を書き込む。予き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらうことが望ましい。修法ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

密教瞑想(観法)とは、すべての密教の修行体系の骨格をなすものであります。何故に密教瞑想が重要なのか、ということを確認すると共に密教瞑想を体感してもらうことを目的とします。密教瞑想の中において誰もが行うことができ、最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立された「阿字観」を取り上げ、阿字観のテキスト(次第)を分析することにより密教瞑想の構造を理解してもらった上で、第二、第三段階へと進化した阿字観を行い、真言密教を味わっていただくことを目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 1. 密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 9. 阿字観本尊の月輪・蓮華の立体化
第二段階の阿字観の実習① |
| 2. 阿字観について | 10. 阿字観本尊の阿字の立体化
第二段階の阿字観の実習② |
| 3. 阿字観と呼吸法 | 11. 広観・斂観について①
第三段階の阿字観の実習① |
| 4. 阿字観の本尊 | 12. 広観・斂観について②
第三段階の阿字観の実習① |
| 5. 阿字観を実習するための解説① | 13. 第三段階の阿字観の実習②
「阿字観の系譜 序論」による解説① |
| 6. 阿字観を実習するための解説② | 14. 第三段階の阿字観の実習③
「阿字観の系譜 序論」による解説② |
| 7. 第一段階の阿字観の実習① | 15. 第三段階の阿字観の実習④
「阿字観の系譜 序論」による解説③ |
| 8. 第一段階の阿字観の実習② | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 北尾隆心「阿字観の系譜 序論」(『密教学』第59号)。

適宜、プリント配布。

〈参考文献〉 北尾隆心著『密教瞑想入門—阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。

適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
013004100:	書道A						(那須 真裕美)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	水4

到達目標

実践に必要な書法と教養としての知識の両面が身につく、日常生活にも活用することができる。

キーワード

運筆法、楷書、隸書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認しておくこと。

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、楷書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。受講にあたっては書道経験の有無やその習熟度合いにこだわらず、講義では資料や動画も活用しながら各自にあわせた指導を行うため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。

(※初回授業はガイダンスを行うため、書道用具を用いた実習は第2回より実施する)

成績評価方法

平常点(授業への取り組みや出席状況:40%)と提出作品(60%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出作品についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする。

授業計画

1. 初回ガイダンス(楷書の学習方法・書道用具について)
2. 楷書の基本的運筆(六朝楷書)
3. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(1)
4. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(2)
5. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(3)
6. 虞世南 孔子廟堂碑(1)
7. 虞世南 孔子廟堂碑(2)
8. 虞世南 孔子廟堂碑(3)
9. チョ遂良 雁塔聖教序(1)
10. チョ遂良 雁塔聖教序(2)
11. チョ遂良 雁塔聖教序(3)
12. 顔真卿 多宝塔碑
13. 柳公権 玄秘塔碑
14. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(1)
15. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(2)

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講義時にプリントを配布する

〈参考文献〉 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

書道用具の一括購入は行なわないため、手持ちの用具があればメンテナンスして使用してください。初回ガイダンスで、必要な道具や手入れの注意事項を説明します。

コード	履修科目名						(担当教員)
013004200:	書道B						(那須 真裕美)
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	水4

到達目標

実践に必要な書法と教養としての知識の両面が身につく、日常生活にも活用することができる。

キーワード

運筆法、行書、草書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認しておくこと。

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、行・草書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。受講にあたっては書道経験の有無やその習熟度合いにこだわらず、講義では資料や動画も活用しながら各自にあわせた指導を行うため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。

(※初回授業はガイダンスを行うため、書道用具を用いた実習は第2回より実施する)

成績評価方法

平常点(授業への取り組みや出席状況:40%)と提出作品(60%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出作品についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする。

授業計画

1. 初回ガイダンス(行草書の学習方法・書道用具について)
2. 行・草書の基本的運筆(1・蘭亭叙)
3. 行・草書の基本的運筆(2・興福寺断碑)
4. 王羲之 集字聖教序(行書)(1)
5. 王羲之 集字聖教序(行書)(2)
6. 王羲之 蘭亭序(行書)(1)
7. 王羲之 蘭亭序(行書)(2)
8. 王羲之 蘭亭序(行書)(3)
9. 王羲之 十七帖(草書)(1)
10. 王羲之 十七帖(草書)(2)
11. 孫過庭 書譜(草書)(1)
12. 孫過庭 書譜(草書)(2)
13. 唐代の行草書(顔真卿)
14. 日本・平安時代の行草書(空海)(1)
15. 日本・平安時代の行草書(空海)(2)

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講義時にプリントを配布する

＜参考文献＞ 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

書道用具の一括購入は行なわないため、手持ちの用具があればメンテナンスして使用してください。初回ガイダンスで、必要な道具や手入れの注意事項を説明します。

コード	履修科目名					(担当教員)	
013007100:	古文書学A～真宗関係の古文書を解読する					(左右田 昌幸)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	水4

到達目標

真言宗はもちろん、日本仏教を歴史的に研究しようとするとき、もっとも基本となる史料の一つである「くずし字」解読方法の基礎の基礎を習得する。

キーワード

日本仏教史 浄土真宗 くずし字 古文書

事前・事後学習

事前学習 配布されたくずし字の史料を解読することにチャレンジする。

事後学習 講義で解読が終わったくずし字の史料を音読する。

授業内容

「古文書」と書いて、「こもんじょ」と読み慣わしています。

一般的なイメージでは、「ミミズがのたくった痕跡」。どこからどこまでが一文字なのかも良く判らない。博物館の展示でも、展示ケースの前を素通り。現在の私たちにとっては、身近な生活からは離れた、博物館などでしか目にしないモノになっています。

この講義では、先ず何より「くずし字」で一体何が書かれているのかを、とにもかくにも把握できるようになることを目指します。

古文書を読むことの初歩の初歩に主眼を置いて、古文書解読の楽しさ・面白さを伝えることを目指します。

成績評価方法

定期試験：80%（他人の回答を見ない限り、持ち込み自由。）

学習への参加度・平常点：20%

なお、試験問題の解答は、定期試験実施後にその場で提示します。

課題に対するフィードバック

適宜、受講生を指名し、すでに解読の終わったくずし字の史料を音読・訓読することを授業で課すことによって、くずし字解読の習熟度を各自で確認する。

授業計画

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 古文書とはなにか | 9. 同じ形式の古文書を多く読む 誓詞起請文3 |
| 2. 古文書解読のコツ・入門 | 10. 真宗における帰参関係の古文書1 |
| 3. 古文書の伝来から内容を考える | 11. 真宗における帰参関係の古文書2 |
| 4. 古文書の破損や汚れから内容を考える | 12. 真宗における帰参関係の古文書3 |
| 5. 「何時、誰が、誰に、何を」伝えようとしたのか | 13. 本尊(木仏)・御影授与関係の古文書1 |
| 6. 解読した古文書を音読する | 14. 本尊(木仏)・御影授与関係の古文書2 |
| 7. 同じ形式の古文書を多く読む 誓詞起請文1 | 15. 一応のまとめ |
| 8. 同じ形式の古文書を多く読む 誓詞起請文2 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 教材となる古文書はコピーを、すべて担当者が事前に準備します。

〈参考文献〉 漢和辞典・歴史年表

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
013007200:	古文書学B～基礎・初歩から少し前進	(左右田 昌幸)					
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～	時間割	水4

到達目標

くずし字辞書や漢和辞典・歴史年表などを使って、ある古文書が相手に何を伝えようとしているのかを理解する

キーワード

近世真宗 本願寺 くずし字 古文書

事前・事後学習

事前学習 配布されたくずし字の史料を、解読できる範囲で解読にチャレンジする。

事後学習 解読の終わったくずし字の史料を音読・訓読する。

授業内容

真宗関係の古文書を材料にして、古文書解読の楽しさ・面白さを伝えることを目指します。講義は、基礎の基礎から再出発します。古文書は、解読した文字だけが情報ではありません。書き直しされた古文書や下書古文書なども採り上げて、一通の古文書から情報を取り出す間口を少しでも広げたいと考えています。

成績評価方法

定期試験：80%（春学期同様。他人の解答を見ることは禁止。何を持ち込んでも自由。）

学習への参加度・平常点：20%

試験終了後にその場で、受講生に回答を提示します。

課題に対するフィードバック

一方的な講義とはしないで、受講生が黒板に解読を板書し、その解読を音読・訓読する。その度に、適宜、注意・指導をおこなう。

授業計画

1. 古文書解読の基礎の確認
2. 禁制1 戦国期の寺内町となにか
3. 禁制2 戦国期の寺内町となにか
4. 講関係の古文書1 門徒組織の講とはなにか
5. 講関係の古文書2 講における門徒の主体性
6. 講関係の古文書3 講の近世的な変貌
7. 寺・道場の相続1 惣道場とはなにか
8. 寺・道場の相続2 住職と看坊の相違
9. 寺・道場の相続3 惣道場から自庵寺院へ
10. 寺争論 寺院における門徒集団の対立
11. 真宗寺院の機能1 寺院はどのような場であったのか
12. 真宗寺院の機能2 公における寺院の役割
13. 日次記の世界1 僧侶の生活
14. 日次記の世界2 寺院をとりまく噂の世界
15. 日次記の世界3 寺院における寺侍の役割

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 教材となる古文書のコピーは、すべて担当者が事前に準備します。

〈参考文献〉 漢和辞典・歴史年表・くずし字辞典

その他

スマホ・携帯でネット上の「くずし字」解読アプリを使用することもあります。

コード	履修科目名					(担当教員)	
013008100:	仏教文学A 「英語との対訳」で学ぶ「空海の生涯」					(川崎 明仁)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月3

到達目標

「空海の生涯」について「英語で」「理解」・「表現」できる

キーワード

①「弘法大師」「空海」の「生涯」 ②「日本語と英語の比較」で「仏教・密教を学ぶ」③「和文英訳」と「英文和訳」の「差異」から学ぶ「日本語と英語の発想の違い」

事前・事後学習

事前学習:「プリント」の「英文中の語句を参考にして」「語群から適切な日本語を選び」、「日本語の原文」を「可能な限り」「復元しておく」とともに、「未習の語句」は「必ず」「[電子]辞書で」「意味だけでなく」「発音やアクセントも」「調べ」、「必要事項」は「プリントの余白」に「自筆で」「書き込んでおく」。
事後学習:「プリント」の「英文だけを見て」、「[電子]辞書を使って」「自分で和訳(直訳)を作り」「ルーズリーフやノート等」に書いた後、「日本語の原文と見比べて」、「日本語と英語の発想の違い」を「実感する」。

授業内容

本講では、「綜藝種智院の創立者」たる「空海」の「生涯」のうち、「誕生」から「師の入寂」までについて、「英語との対訳」で学んでいく。「空海」は、「宗教家のみならず」、「書家」・「教育者」・「建築家」・「外交家」等としても素晴らしい功績を残しており、「これらについて学ぶこと」は「本学の学生としては当然のこと」であるので、「[両学科の]全学生」が「卒業年次まで」に受講することが「望ましい」。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点(出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む)(30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書)を提出できる場合は除く。」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|---|--|
| 1. 誕生 Birth | 9. 留学僧として唐へ Leaving for Tang China to Devote Himself to Studying Esoteric Buddhism |
| 2. 神童「真魚」 Child Prodigy Mao | 10. 命がけの航海 Sailing at the Risk of Life |
| 3. 平安京での学び Studying in Heiankyo (Kyoto as an ancient capital) | 11. 阻まれた上陸 Prevented Landing |
| 4. 密教との運命的な出会い Fateful Encounter with Esoteric Buddhism | 12. 長安に到着 Arrival in Changan (the present Xi'an), the Capital of Tang China |
| 5. 山野での壮絶な修行 Ascetic Practices in Fields and Mountains | 13. 恵果(運命の師)との出会い Encounter with Huiguo (Kukai's fateful guru) |
| 6. 神秘体験 Mystic Experience | 14. 二つの灌頂 Two Abhiseka Baptisms |
| 7. 大日経との出会い Encounter with Mahavairocana Sutra (one of important sutras in esoteric Buddhism) | 15. 恵果の入寂 Huiguo's Passing Away |
| 8. 空海と鉱山 Kukai and Mines | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 授業の都度、教員がプリントを配布する。
＜参考文献＞ 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
013008200: 仏教文学B 「英語との対訳」で学ぶ「空海の生涯」							(川崎 明仁)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月3

到達目標

「仏教文学A」に「同じ」。

キーワード

「仏教文学A」に「同じ」。

事前・事後学習

「仏教文学A」に「同じ」。

授業内容

本講では、「春学期に開講」の「本科目(仏教文学)A」に続いて、「空海」の「生涯」のうち、「帰国」から「入定」までについて、「英語との対訳」で学んでいく。

Aと同様、「空海の生涯について学ぶこと」は、「本学の学生としては当然のこと」なので、「[両学科の]全学生」が「卒業年次までに受講する」ことが「望ましい」。

成績評価方法

「仏教文学A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「仏教文学A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|--|---|
| 1. 帰国 Returning to Japan | 9. 東寺を造営 Building Toji Temple |
| 2. 「請来目録」を朝廷に上奏 Presentation of "Catalog of Items Brought from Tang China" to the Imperial Court | 10. 語学の達人、空海 Kukai as a Master of Language Learning |
| 3. 政変を解決 Settlement of a Coup d'Etat | 11. 国際人、空海 Kukai as a Cosmopolitan |
| 4. 嵯峨天皇との出会い Encounter with Emperor Saga | 12. 土木技師、空海 Kukai as a Civil Engineer |
| 5. 最澄との出会い・別れ Encounter and Parting with Saicho | 13. 教育者、空海 Kukai as an Educator |
| 6. 藤原氏との交流 Association with the Fujiwara Clan | 14. 空海の宇宙観 Kukai's Outlook on the Universe |
| 7. 空海の十大弟子 Kukai's Ten Great Disciples | 15. 入定 Entering the Eternal Meditation |
| 8. 高野山を造営 Building Koyasan Temple | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉「仏教文学A」に「同じ」。

〈参考文献〉「仏教文学A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
013009100:	日本美術史1A						(長谷 法寿)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	土1

到達目標

日本における仏教美術の歴史(インドから日本の平安時代から鎌倉時代)

キーワード

釈尊伝、仏教の伝来、密教の伝来、平安仏教、末法思想

事前・事後学習

事前：授業計画の各年代の美術について調べておくこと。

事後：授業後、新しく知った事をノートに書きとめる。

授業内容

仏教美術(仏像、仏画)の歴史を中心に本講義を進めて行く。講義の進め方としては、インドの仏教美術、仏伝図から始め、日本へ伝わった仏像、仏画の歴史を観る。春学期では、仏教伝来時から平安時代後期までを解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況と授業態度) 40%定期試験(レポート) 60%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

1. 仏教美術の概要(インド・中国・日本)
※以下()内の数字は西暦年
2. 釈尊伝と仏伝図(インド)仏教像と密教像
3. 縄文時代から仏教伝来(紀元前～538年)
4. 欽明11年から崇峻元年(550～588)の仏教美術
5. 推古2年から推古17年(594～609)の仏教美術
6. 推古30年から大化元年(622～645)の仏教美術
7. 大化6年から天智5年(650～666)の仏教美術
8. 天武14年から大宝2年(685～702)の仏教美術
9. 飛鳥・白鳳時代の仏教美術
10. 慶雲3年から靈龜3年(706～716)の仏教美術
11. 養老3年から天平6年(719～734)の仏教美術
12. 天平勝宝・元年から天平宝宇7年(749～763)の仏教美術
13. 天平宝宇8年から延暦10年(764～791)の仏教美術
14. 奈良・天平時代の仏教美術(前編)
15. 奈良・天平時代の仏教美術(後編)

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 毎回レジュメを作成し、配布もしくは板書で解説する。

＜参考文献＞ 『ほんとうにすごい仏像図鑑』長谷法寿監修 朝日新聞社2021年刊

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名						(担当教員)
013009200:	日本美術史1B						(長谷 法寿)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	土1

到達目標

約400年にわたる平安初期から鎌倉時代の仏教美術の流れを解説することにより、年代順に変化してゆく彫刻様式等が識別できる

キーワード

密教美術、浄土教美術、鎌倉時代の仏教美術

事前・事後学習

事前：授業計画の各年代の美術について調べておくこと。

事後：授業後、新しく知った事をノートに書きとめる。

授業内容

春学期の奈良・天平時代の仏教美術に続いて、後期では平安時代初期から鎌倉時代の仏教美術を解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況と授業態度)40%定期試験(レポート)60%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

1. 弘法大師の御行状と密教美術(前編)
2. 弘法大師の御行状と密教美術(後編)
3. 延暦12年から大同元年(793～806)年の仏教美術
4. 弘仁3年から承和元年(812～834)の仏教美術
5. 承和6年から斉衡2年(839～855)の仏教美術
6. 貞観時代の仏教美術(859～876)の仏教美術
7. 元慶から寛平時代(877～897)の仏教美術
8. 醍醐帝時代(897～930)の仏教美術
9. 藤原時代(931～956)の仏教美術
10. 藤原時代(957～1053)の仏教美術
11. 平安時代の仏教美術(前期)
12. 平安時代の仏教美術(中期)
13. 平安時代の仏教美術(後期)
14. 鎌倉時代(1192～1243)の仏教美術
15. 鎌倉時代(1244～1333)の仏教美術

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 レジユメを作成配布し、板書と拡大写真で解説する

《参考文献》 『ほんとうにすごい仏像図鑑』長谷法寿監修 朝日新聞社2021年刊

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名					(担当教員)	
014051100:	インド哲学概論A「ウパニシャッドとアピダルマ哲学」					(松本 峰哲)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火4

到達目標

ヒンドゥー教・仏教等インド諸宗教の持つ独自の哲学思想のそれぞれの違いを説明できる。

キーワード

ヴェーダ、ウパニシャッド、アピダルマ、バラモン教、六派哲学

事前・事後学習

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。予習は特には不要です。

授業内容

インドでは古代から哲学が発展しました。インド哲学の大きな特徴は、哲学と宗教が常に密接に関係していることにあります。つまり、哲学を知らずにインドの宗教を知ることは困難であり、宗教観を無視して哲学を考えることも困難なのです。ですから、同じインド発祥の宗教である仏教を理解する上でも、インド哲学を知ることは非常に重要です。

本講義ではインドの哲学のうち、特に1世紀頃までの思想についてお話しします。

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。

成績評価方法

平常点：30% (出席率及び授業態度)

レポート：70%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 仏教の成立とアピダルマ哲学(3) |
| 2. インド哲学とは何か | 10. 仏教の成立とアピダルマ哲学(4) |
| 3. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(1) | 11. バラモン哲学の成立(1) |
| 4. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(2) | 12. バラモン哲学の成立(2) |
| 5. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(3) | 13. バラモン哲学の成立(3) |
| 6. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(4) | 14. バラモン哲学の成立(4) |
| 7. 仏教の成立とアピダルマ哲学(1) | 15. まとめ |
| 8. 仏教の成立とアピダルマ哲学(2) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 立川武蔵『はじめてのインド哲学』講談社現代新書

〈参考文献〉 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
014051200:	インド哲学概論B「大乘仏教哲学とバラモン哲学」						(松本 峰哲)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火4

到達目標

ヒンドゥー教・仏教等インド諸宗教の持つ独自の哲学思想のそれぞれの違いを説明できる。

キーワード

大乘仏教、中観、唯識、タントリズム、ヒンドゥー教

事前・事後学習

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。予習は特には不要です。

授業内容

インドでは古代から哲学が発展しました。インド哲学の大きな特徴は、哲学と宗教が常に密接に関係していることにあります。つまり、哲学を知らずにインドの宗教を知ることは困難であり、宗教観を無視して哲学を考えることも困難なのです。ですから、同じインド発祥の宗教である仏教を理解する上でも、インド哲学を知ることは非常に重要です。

本講義ではインド哲学のうち特に2世紀以降、インドで仏教の滅亡する13世紀頃までの思想についてお話しします。

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。

成績評価方法

平常点：30% (出席率及び授業態度)

レポート：70%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. イントロダクション | 9. バラモン哲学の展開(4) |
| 2. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(1) | 10. バラモン哲学の展開(5) |
| 3. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(2) | 11. タントリズム(1) |
| 4. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(3) | 12. タントリズム(2) |
| 5. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(4) | 13. タントリズム(3) |
| 6. バラモン哲学の展開(1) | 14. 仏教・ヒンドゥー教以外のインド宗教哲学 |
| 7. バラモン哲学の展開(2) | 15. まとめ |
| 8. バラモン哲学の展開(3) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 立川武蔵『はじめてのインド哲学』講談社現代新書

《参考文献》 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
014052100:	日本思想史A～原始・古代から中世の思想の展開～	(向井 啓二)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	金2

到達目標

- ・人間の誕生とともに思想が生まれ、それが受け継がれて変化していくことが理解できる。
- ・日本の思想が日本だけの思想ではなく、当時の社会や諸外国からの様々な影響を受けて形成されていることが理解できる。
- ・思想とは宗教や日常の文化をも含んだものであることが理解できる。

キーワード

古代～中世の宗教の展開 思想の変化 思想と社会の関係

事前・事後学習

- 事前：毎回の授業終了時に次回扱うテーマについて予告するので、人物や事項について下調べしておくこと。
- 事後：授業時に配布した資料(史料)プリントを見直し、その日学んだ内容についてノートを整理し直すこと。

授業内容

古代から中世にかけての日本人の思考を理解する。史料(資料)を利用し、各時代の社会・思想・文化について理解することができる。

成績評価方法

- 平常点40% (出席は特に重視する)
定期テストまたはレポート60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまで授業で取り上げた内容を要約・整理し、フィードバックする。

授業計画

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 思想とは何か――似たような語を含め考える―― | 9. 中世仏教思想②：栄西・道元 |
| 2. 原始人の思想とは――文字のない世界の思想―― | 10. 中世仏教思想③：日蓮 |
| 3. 古代の思想①：『古事記』①――日本のカミの登場―― | 11. 中世封建思想――武士の思想―― |
| 4. 古代の思想②：『古事記』②――日本のカミの世界―― | 12. 中世民衆思想 |
| 5. 古代仏教思想①：導入にあたって | 13. 復習①：古代思想概括 |
| 6. 古代仏教思想②：奈良時代の仏教 | 14. 復習②：中世思想概括 |
| 7. 古代仏教思想③：平安時代の仏教 | 15. まとめ・ふり返り |
| 8. 中世仏教思想①：法然・親鸞 | |

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 特になし。必要に応じてプリントを作成し配布する。
 ＜参考文献＞ 末木文美士『日本思想史』（岩波新書 新赤版1821）

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
014052200:	日本思想史B～近世から近代・現代までの思想の変化～	(向井 啓二)					
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	金2

到達目標

- ・中世までの思想の歴史が次の時代にも影響を与え、思想の歴史が続いていくことが理解できる。
- ・近世の思想の代表的な流れを理解することができる。特に近世の思想が中世までの宗教(仏教)を中心とするものでなく大きく変化していくことが理解できる。また、思想史が日本だけの狭い発達でないことが理解できる。
- ・思想家だけでなく我々のような民衆にも思想が形成されていることを理解できる。
- ・近代の思想は、これまで以上に社会や経済の変化に影響されて変化していることが理解できる。

キーワード

儒学(儒教) 国学 蘭学 啓蒙思想 民権思想 近代思想の展開

事前・事後学習

事前：毎回授業終了時に次回扱うテーマについて予告するので、それらに関する人物や事項について下調べしておくこと。

事後：授業時に配布した資料(史料)プリントを中心に、ノートの整理をし直して欲しい。

授業内容

江戸時代の思想は中世までの宗教思想とは異なり、様々な学問の形成とそれを説いた人々の思想が中心となることを理解する。同じく近現代の様々な思想家の思想が社会や経済の変化に影響を受けていることを理解する。

成績評価方法

平常点40% (出席は特に重視する。)

定期テストまたはレポート60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまで授業で取り上げた内容を要約・整理し、フィードバックする。

授業計画

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 近世の儒学①：朱子学 | 9. 18世紀の開明思想・幕末の思想 |
| 2. 近世の儒学②：陽明学 | 10. 近代思想①：啓蒙思想家 |
| 3. 近世の儒学③：その他の学派 | 11. 近代思想②：自由民権思想 |
| 4. 近世の国学① | 12. 近代思想③：社会主義思想 |
| 5. 近世の国学② | 13. 現代思想①：庶民の思想 |
| 6. 近世の蘭学① | 14. 現代思想②：欧米思想の影響 |
| 7. 近世民衆思想①：農民・町人の思想 | 15. まとめ・ふり返し |
| 8. 近世民衆思想②：百姓一揆の思想・近世仏教思想 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。必要に応じてプリントを作成し配布する。

〈参考文献〉 特になし。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
014059100:	心理学概論A						(岡崎 良仁)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

人の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。
 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。
 心理学の基礎理論や方法論を体系的に理解し対人援助の実践に生かす。

キーワード

認知心理学、学習心理学、発達心理学、心理アセスメント

事前・事後学習

授業で扱った内容に関して、感想や疑問点をコメントシートにまとめ、毎授業ごとに提出する。授業内容で関心を持った領域やテーマに関して、授業資料等を通じて理解を深める。社会福祉士、精神保健福祉士をめざす場合は心理学概論Bもあわせて履修することが望ましい。

授業内容

人間理解を深めるために、こころと行動の仕組みについて理解することが重要です。心理学による人間理解をすすめるために心理学の歴史や方法、知覚、学習、記憶、発達などの基礎理論を概説します。特に社会福祉士や精神保健福祉士に必要な心理学的知見や手法を実践に活用できることを目標とします。

成績評価方法

平常点 30% (コメントシートの提出)
 課題 70% (授業中に小テストを実施)

課題に対するフィードバック

今回の授業でコメントシートへのフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 心理学とは：心理学の歴史・領域・研究法 | 9. 人の成長と発達1：言語の発達 |
| 2. 人の心理学的理解1：感覚・知覚 | 10. 人の成長と発達2：愛着の発達 |
| 3. 人の心理学的理解2：記憶 | 11. 人の成長と発達3：認知の発達 |
| 4. 人の心理学的理解3：思考 | 12. 人の成長と発達4：道徳性の発達 |
| 5. 人の心理学的理解4：知能 | 13. 日常生活と心の健康1：ストレスとストレスケア |
| 6. 人の心理学的理解5：学習 | 14. 臨床心理学の基礎理論1：力動的心理療法 |
| 7. 人の心理学的理解6：感情と動機づけ | 15. 臨床心理学の基礎理論2：認知行動療法 |
| 8. 人の心理学的理解7：パーソナリティ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特に指定しない。授業ごとに資料を配布する。
 〈参考文献〉 山村豊 高橋一公 『心理学』第6版 医学書院

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
014059200:	心理学概論B						(岡崎 良仁)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

日常生活と心の健康との関係について理解する。
 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。
 心理学基礎理論に加え臨床心理学の知見を理解し対人援助の実践に生かす。

キーワード

精神病理、臨床心理学、心理療法

事前・事後学習

授業で扱った内容に関して、感想や疑問点をコメントシートにまとめ、毎授業ごとに提出する。授業内容で関心を持った領域やテーマに関して、授業資料等を通じて理解を深める。社会福祉士、精神保健福祉士をめざす場合は心理学概論Aもあわせて履修することが望ましい。

授業内容

人間理解を深めるために、こころと行動の仕組みについて理解することが重要です。心理学による人間理解をすすめ、対人援助に生かすために、様々な精神病理について紹介し、臨床心理学の歴史や人格理論、人を支える方法論等について概説します。社会福祉士や精神保健福祉士に必要な心理学的知見や手法を実践に活用できることを目標とします。

成績評価方法

平常点 30% (コメントシートの提出)
 課題 70% (授業中に小テストを実施)

課題に対するフィードバック

今回の授業でコメントシートへのフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1. 日常生活と心の健康2: 発達障害 | 9. 臨床心理学の基礎理論4: エリクソンの発達理論 |
| 2. 日常生活と心の健康3: 統合失調症 | 10. 臨床心理学の基礎理論5: ユングとアドラーの心理学 |
| 3. 日常生活と心の健康4: うつ病 | 11. 臨床心理学の基礎理論6: ロジャーズの来談者中心療法 |
| 4. 日常生活と心の健康5: 人格障害 | 12. 臨床心理学の基礎理論7: 家族療法 |
| 5. 日常生活と心の健康6: 神経症 | 13. 心理アセスメント1: 質問紙法 |
| 6. 日常生活と心の健康7: 心と体の問題 | 14. 心理アセスメント2: 作業検査法・投影法 |
| 7. 日常生活とこころの健康8: 各発達期に起きる問題 | 15. 心理アセスメント3: 精神症状のアセスメント |
| 8. 臨床心理学の基礎理論3: 精神分析の発達理論 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特に指定しない。授業ごとに資料を配布する。
 《参考文献》 山村豊 高橋一公 『心理学』第6版 医学書院

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
014060100:	社会学概論A					(西牟田 真希)	
単位	2	期別	春学期	学年	1年次～	時間割	木5

到達目標

社会学で扱う概念を使った、ものの見方や考え方を学ぶ。
授業で習った議論を展開し、論述する

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会学用語や概念を理解し、さまざまな考え方を区別して、説明できるようになることを目的とする。春学期は、社会のしくみと現代社会の変化や社会問題の背後に影響する秩序関係を見いだすことを目標とする。

授業は講義形式で行うが、各単元の終わりに、授業内容を用いて整理し、根拠をまとめる課題を設ける。この授業課題では、講義の議論に賛成するか反対するかなどの立場と理由を説明する場合もある。最終的には本講義を通して、賛成と反対など両方の立場が成立することと、同時に現代社会においても絶対的に正しい選択肢や正解があるわけではない中から、社会における問題について自分の立場を示す方法を学ぶ。なお、秋学期に開講される社会学概論Bとあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業課題(40%)、筆記試験(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. オリエンテーション…本講義のねらいと進め方・社会学の視点 | 9. 社会構造と変動…産業社会では「生産男」と「家事女」が最強カップル? |
| 2. 市民社会と公共性…不安と無関心の時代 | 10. 自己と他者…ジェンダー(1) |
| 3. 市民社会と公共性…社会という謎-個人(単数)と人々(複数)の集まり | 11. 自己と他者…ジェンダー(2) |
| 4. 自己と他者…他者という謎-われわれとよそ者(1) | 12. 生活と人生…家事という謎-支払われない労働(シャドー・ワーク) |
| 5. 自己と他者…他者という謎-われわれとよそ者(2) | 13. 市民社会と公共性…男らしさ・女らしさの「震」 |
| 6. 生活と人生…日常という謎-演技する社会、儀礼する社会(1) | 14. 社会構造と変動…産業社会では「生産男」と「家事女」が最強カップル? |
| 7. 生活と人生…日常という謎-演技する社会、儀礼する社会(2) | 15. まとめ |
| 8. 社会構造と変動…権力という謎-身体刑による権力(1) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 奥村隆、『社会学の歴史Ⅱ——他者への想像力のために——』ミネルヴァ書房、2022年。
(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)教科書に指定しない
が、読んでおくことをすすめる。

《参考文献》 奥村隆編、『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン——』ミネルヴァ書房、2018年。玉野和志編、『ブリッジブック社会学』信山社、2008年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
014060200:	社会学概論B						(西牟田 真希)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	木5

到達目標

社会学で扱う概念を使った、ものの見方や考え方を学ぶ
授業で習った議論を展開し、論述する

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会学用語や概念を理解し、さまざまな考え方を区別して、説明できるようになることを目的とする。秋学期は、日常生活や現代社会の問題が、社会学の理論でどのように説明することができるかを中心に、授業を進める。

授業は講義形式で行うが、各単元の終わりに、授業内容を用いて整理し、根拠をまとめる課題を設ける。この授業課題では、講義の議論に賛成するか反対するかなどの立場と理由を説明する場合もある。最終的には本講義を通して、賛成と反対など両方の立場が成立することと、同時に現代社会においても絶対的に正しい選択肢や正解があるわけではない中から、社会における問題について自分の立場を示す方法を学ぶ。なお、春学期に開講される社会学概論Aとあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業課題(40%)、筆記試験(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. オリエンテーション…本講義のねらいと進め方・社会学の視点 | 9. 生活と人生…芸術とメディア |
| 2. 市民社会と公共性…世界(社会)という謎 - 「中心」から見た世界と「周辺」から見た世界は、それぞれどう見える? | 10. 社会構造と変動…経済界や文学界、芸能界などの「界」とはどのような世界(社会)か? |
| 3. 市民社会と公共性…成長段階論と従属理論 | 11. 社会構造と変動…階級という謎-エリートの再生産と不平等の「文化的再生産」 |
| 4. 社会構造と変動…平等と公平はいつでも正しいのか? | 12. 市民社会と公共性…「社会システム」のコミュニケーション |
| 5. 社会構造と変動…人種差別と普遍主義 | 13. 市民社会と公共性…「社会学的想像力」 |
| 6. 自己と他者…身体 | 14. ふたたび、社会という謎-世界(社会)における「他でもありえる可能性」 |
| 7. 自己と他者…メディアと社会 | 15. まとめ |
| 8. 生活と人生…スポーツとメディア | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 奥村隆、『社会学の歴史Ⅱ——他者への想像力のために——』ミネルヴァ書房、2022年。
(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)教科書に指定しない
が、読んでおくことをすすめる。

《参考文献》 奥村隆編、『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン——』ミネルヴァ書房、2018年。玉野和志編、『ブリッジブック社会学』信山社、2008年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
015001100:	寺院運営論						(村主 康瑞)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火3

到達目標

現代の宗教者として、自己の在り方が明確になる
寺院住職として、寺院運営に必要な知識が習得できる

キーワード

寺院運営

事前・事後学習

事前学習：寺院の役割や寺院運営について考え、ノートにまとめる。
事後学習：毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などをノートにまとめる。

授業内容

寺院は、地域の一つの中心として、社会におけるコミュニティーの性格を担ってきたが、現代においては都市化が進む中で、寺院の位置づけが明確ではなく、希薄となってきた。
それ故に、今日においてこそ寺院の役割を明確にする必要が生じているのであり、現代の寺院に求められている活動やその理念を明確にすることが必要になってきている。
本学に学ぶことにより、寺院経営者あるいは宗教者としての哲学や心構えを自らのなかに構築してもらいたい。

成績評価方法

平常点100%

課題に対するフィードバック

講義内で随時、フィードバックを行う。

授業計画

1. 村主康瑞教授 担当
 - 現代社会における寺院分析を行い、各自の立場を対比させる。
 - 現在の寺院形態を知る。
 - 檀家制を考える。
 - 各宗派宗団を分析し考える。
 - 宗教哲学を学ぶ。
 - 聖と俗を考える。
 - 日本の宗教心を考える。
 - 宗教者としての自分と社会あるいは家族を考える。
 - 実務を学ぶ。(行法・作法・作務)
2. 学外講師等チェーンレクチャー
 - 宗教法人監督官庁担当者から、宗教法人法・宗教法人規則を学ぶ。
 - 公認会計士から寺院会計を学ぶ。
 - 元アナウンサーから話し方の基礎を学ぶ。

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 とくに使用しない。
《参考文献》 とくに使用しない。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
015011100:	スポーツ実技1						(当麻 成人)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

基礎体力向上、実施種目の技能向上。コミュニケーション能力向上および得られた経験を基に運動習慣を身につけ活用する。礼節など積極的に行われる。

キーワード

基礎体力向上、技能向上、健康づくり、コミュニケーション

事前・事後学習

身体運動を行うため前日は休養に心がける。行われる種目のルールを把握しておく。事後はストレッチを行い身体のケアを実践する。

授業内容

様々な種目を経験しながら、基礎体力向上を図る。不活動でではからだが鈍り、鍛えれば力強くなることを体現する。けがの予防とウォーミングアップを兼ねた身体運動を毎回行う。参加人数により種目を変更することがある。

成績評価方法

身体活動量の確保、技能向上(70%)、コミュニケーションの度合い、マナー、助け合い、礼節の実践(30%)

課題に対するフィードバック

希望者には評価を開示する。

授業計画

1. ガイダンス、バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
2. バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
3. バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
4. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
5. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
6. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
7. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
8. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
9. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
10. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
11. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
12. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
13. まとめ・バドミントン
14. まとめ・卓球
15. まとめ・Basketボール、バレーボール

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 使用しない。
- ＜参考文献＞ 使用しない。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
015011200:	スポーツ実技2						(当麻 成人)
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月2

到達目標

基礎体力向上、実施種目の技能向上。コミュニケーション能力向上および得られた経験を基に運動習慣を身につけ活用する。礼節など積極的に行われる。

キーワード

基礎体力向上、技能向上、健康づくり、コミュニケーション

事前・事後学習

身体運動を行うため前日は休養に心がける。行われる種目のルールを把握しておく。事後はストレッチを行い身体のケアを実践する。

授業内容

様々な種目を経験しながら、基礎体力向上を図る。不活動でではからだが鈍り、鍛えれば力強くなることを体現する。けがの予防とウォーミングアップを兼ねた身体運動を毎回行う。参加人数により種目を変更することがある。

成績評価方法

身体活動量の確保、技能向上(70%)、コミュニケーションの度合い、マナー、助け合い、礼節の実践(30%)

課題に対するフィードバック

希望者には評価を開示する。

授業計画

1. ガイダンス、バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
2. バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
3. バドミントン(ドライブ、ロブ、クリア、ヘアピン)、ゲーム
4. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
5. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
6. 卓球(フォアハンド、バックハンドの切り替え練習)、ゲーム
7. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
8. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
9. バasketボール(ハンドリング、ドリブル、シュート)、ゲーム
10. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
11. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
12. バレーボール(トス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ)、ゲーム
13. まとめ・バドミントン
14. まとめ・卓球
15. まとめ・Basketボール、バレーボール

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 使用しない。
- ＜参考文献＞ 使用しない。

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
016001100:	豊山法儀研究I					(中 宣昭)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火4、5

到達目標

真言宗豊山派総本山長谷寺に伝承された声明・法儀を習得し、豊山派教師として必要な経・讃を唱えられる。

キーワード

経、声明、所作

事前・事後学習

〈事前学習〉法衣の着脱方と畳み方を練習しておく。経本の指定範囲にルビを振っておく。
 〈事後学習〉授業で習得した唱え方を重ねて練習する。

授業内容

威儀を正すことを最重要視する為、法衣(直綴、如法衣、白衣、足袋等)を着用して行う。頭髪は短髪。着色は認めない。呼吸法、発声法、発音も含めて長谷寺所伝の声明、鏡鉢等の所作を習得していく。殊に9月に1週間に渡って総本山長谷寺にて行われる「宗派指定研修所」に向け、弘法大師御影供二箇法要にて唱える前・後讃の6曲と祭文を中心に習得していく。さらに6月の学校行事「降誕会」に必要な讃を習得する。

成績評価方法

平常点:50% (主に出席と授業態度を評価します。)実技試験:40% (その都度達成度を評価します。)レポート等:10% (文章力を評価します。)

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 座法、呼吸法、発音、発声及び聲明の楽理 ・ 基本の旋律型の練習 ・ 般若心経の読誦 ・ 四威儀作法 2. 発声練習 ・ 基本の旋律型の練習 ・ 般若心経の読誦 ・ 四智梵語 3. 基本の旋律型の練習 ・ 般若理趣経の素読 ・ 護身法の傳授 ・ 四智梵語 4. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 心略梵語 ・ 鏡鉢所作 5. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 東方讃 ・ 鏡鉢所作 ・ 入退堂の所作 6. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 祭文 ・ 降誕会関係の曲 7. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 四智漢語 ・ 降誕会関係の曲 8. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 心略漢語 ・ 降誕会関係の曲 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 西方讃 ・ 降誕会関係の曲 10. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 理趣經中曲 ・ 降誕会関係の曲 11. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 唄 ・ 散華 12. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 三陀羅尼 ・ 散華 ・ 対揚 13. 護身法 ・ 理趣経素読 ・ 復習 ・ 三陀羅尼 ・ 金剛界唱礼 14. 護身法 ・ 諸讃の復習 ・ 三陀羅尼 ・ 長谷寺の朝勤行 ・ 食事作法 ・ 水施餓鬼 15. 総復習 |
|--|---|

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『二箇法要法則』『常用經典』豊山派宗務所発行、『豊山聲明大成』豊山聲明大成刊行会、他プリントを配布

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016001200:	豊山法儀研究Ⅱ						(中 宣昭)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火4、5

到達目標

真言宗豊山派総本山長谷寺に伝承された聲明・法儀をより深く習得し、法要・檀務に出仕できる。

キーワード

経、声明、所作

事前・事後学習

- 〈事前学習〉経本の指定範囲にルビを振っておく。
- 〈事後学習〉授業で習得した唱え方を重ねて練習する。

授業内容

宗派指定研修も終え、中には加行も修了した人もあり、僧侶としての自覚も少しずつ芽生えてきた頃であるので、聲明を通じて僧侶意識のさらなる向上の為、研鑽する。

12月に行われる学校行事の「報恩会」に向けて関係諸曲を修得する。並びに2月に、総本山長谷寺で行われる「宗派指定研修所」に向けて、二箇法要・報恩講を修得する。また、毎年東寺に於いて厳修される「後七日御修法」の道場が1月14日正午に開場されるので、必ず参拝する。

直綴、如法衣、白衣、足袋等を必ず着用。頭髪は短髪。着色しない。

成績評価方法

平常点：50%（主に出席と授業態度を評価します。）実技試験：40%（その都度達成度を評価します。）レポート等：10%（文章力を評価します。）

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 三寶禮 ・ 如来唄 | 9. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 金剛界唱禮Ⅱ |
| 2. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 理趣經中曲 | 10. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 報恩講 壽量品 |
| 3. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 散華Ⅰ ・ 對揚Ⅰ | 11. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 報恩講 出仕論議Ⅰ |
| 4. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 散華Ⅱ ・ 對揚Ⅱ | 12. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 報恩講 出仕論議Ⅱ |
| 5. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 云何唄Ⅰ | 13. 護身法 ・ 理趣經中曲 ・ 金胎禮懺Ⅰ ・ 二箇法要の復習 |
| 6. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 云何唄Ⅱ | 14. 護身法 ・ 理趣經中曲 ・ 金胎禮懺Ⅱ ・ 二箇法要の復習 |
| 7. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 金剛界唱禮Ⅰ | 15. 総復習 |
| 8. 護身法 ・ 理趣経切々経 ・ 諸讃の復習 ・ 金剛界唱禮Ⅱ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『二箇法要法則』『常用經典』『報恩講出仕論義』豊山派宗務所発行、『豊山聲明大成』豊山聲明大成刊行会、他プリント

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016001300:	豊山法儀研究Ⅱ						(孤島 泰凡)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～	時間割	木4、5

到達目標

- ・豊山派の教師として必要な法儀(法式・声明)の基礎を実践できる
- ・総本山長谷寺所伝の豊山声明がお唱えできる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

春学期は、小野塚与澄編豊山派宗定『二箇法要法則』（弘法大師御影供二箇法用付理趣三昧法則）と、新仮博士(十二音博士)による教則本『豊山声明大成』を用いて密教声明を学ぶ。
9月初旬の総本山長谷寺における豊山派宗派指定研修において、法式を中心とした声明の実習を行う。
6月の大学での両相大師降誕会には出席のこと。

成績評価方法

出席状況および実技、特に声明は演唱することが最も大切であるので、出席を重視する。厳密に2/3以上出席すること。評価は平常点(出席50%、授業での唱態度20%)、実唱試験30%。

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 四威儀作法・発声・数息観・読経(長谷寺勤行法則)
2. 声明の歴史・理論
3. 諸讃(梵語讃・漢語讃)
4. 三宝礼・如来唄・云何唄・出家唄
5. 散華(大日・薬師・弥陀・観音)・対揚
6. 金剛界唱礼①
7. 金剛界唱礼②
8. 胎蔵界唱礼①
9. 胎蔵界唱礼②
10. 理趣経(切々経)
11. 理趣経(中曲)①
12. 理趣経(中曲)②
13. 大般若法則①
14. 大般若法則②
15. 総復習

※講義は毎週2時間(第4・第5講時)連続で行う。担当講師とアシスタントティーチャーが交互に出講する。授業には、白衣・黒直綴・如法衣を被着のこと

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 真言宗豊山派宗務所発行『二箇法要法則』『大般若法則』『豊山声明大成』『真言宗豊山派研修勤行次第』
- 〈参考文献〉 『豊山派法則集』『新義真言宗声明集成(楽譜編、レコード編)』『真言宗の法式』『孤島由昌声明集』

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016001400:	豊山法儀研究Ⅳ						(孤島 泰凡)
単位	2	期別	秋学期	学年	2年次～	時間割	木4、5

到達目標

- ・豊山派の教師として必要な法儀(法式・声明)の基礎を実践できる
- ・総本山長谷寺所伝の豊山声明がお唱えできる

キーワード**事前・事後学習****授業内容**

秋学期は、豊山派宗務所発行の『常楽会法則』を用いて、顕教声明(四箇法用一如来唄・釈迦散華・梵音・三条錫杖)、伽陀・和讃・舍利讃歎・念仏・涅槃講式・遺教経等)と、論義『冬報恩講出仕論義』をそれぞれ学ぶ。2月中旬の総本山長谷寺における豊山派宗派指定研修で、冬報恩講論義の実修を行う。授業は担当講師とアシスタントティーチャーが交互に行う。授業では、白衣、黒直綴・如法衣を被着すること。

成績評価方法

出席状況および実技、特に声明は演唱することが最も大切であるので、出席を重視する。厳密に2/3以上出席すること。評価は平常点(出席50%、授業での演唱態度20%)、実唱試験30%。

課題に対するフィードバック**授業計画**

1. 四箇法要常楽会について
2. 長音の如来唄
3. 釈迦散華・梵音
4. 三条錫杖
5. 伽陀(総礼伽陀・回向伽陀)
6. 伽陀(別礼伽陀・讃歎伽陀)
7. 勧請・称名礼・祭文
8. 涅槃和讃
9. 舍利讃歎
10. 舍利礼・釈迦念仏・御前頌・哭仏讃
11. 仏遺教経
12. 涅槃講式
13. 如来寿量品
14. 冬報恩講論義
15. 総復習

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 豊山派宗務所発行『常楽会法則』三巻一帙・『報恩講出仕論議法則』二巻一帙・『豊山声明大成』『真言宗豊山派研修動行次第』

〈参考文献〉 レコード『四座講式』日本コロムビア

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016002100:	豊山教学史A						(早川 道雄)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～	時間割	火2

到達目標

弘法大師空海の『十住心論』の内容とその背景が考察できる

キーワード

十住心、華嚴経、大日経、金剛頂経、空海

事前・事後学習

事前:テキストの指定範囲を熟読して予習すること

事後:二回目以降の授業冒頭における「前回の内容確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて考察するものである。春学期においては『十住心論』を取り上げる。本書は天長年間(824～833)に空海が著した真言宗の宗義の綱要書である。その内容は、真言宗の由来と教義の概要を述べるにとどまらず、当時日本に存在した南都六宗と天台・真言のみならず、小乗仏教、さらには仏教以外のインドおよび中国の思想・宗教をも、密教を最上とする立場から総合的に把握し、提示したものである。本書の思想史的意義を考えてみよう。テキストは『大乘仏典 日本・中国篇』(中央公論社)の第14巻「空海」の解説を用いる。

成績評価方法

平常点:50%

レポート:50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行なって、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する。

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 秘密曼荼羅としての世界① | 9. 『大日経』世界と十住心の構造③ |
| 2. 秘密曼荼羅としての世界② | 10. 空海の危機① |
| 3. 秘密曼荼羅としての世界③ | 11. 空海の危機② |
| 4. 曼荼羅としての華嚴世界の構造① | 12. 空海の危機③ |
| 5. 曼荼羅としての華嚴世界の構造② | 13. 実在世界とその意義① |
| 6. 曼荼羅としての華嚴世界の構造③ | 14. 実在世界とその意義② |
| 7. 『大日経』世界と十住心の構造① | 15. 実在世界とその意義③ |
| 8. 『大日経』世界と十住心の構造② | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講師が準備し、配布する。

〈参考文献〉 講師が準備し、配布する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016002200:	豊山教学史B						(早川 道雄)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～	時間割	火2

到達目標

『金剛頂経』の内容とその意義が考察できる

キーワード

五相成身観、一切義成就菩薩、五相成身観、後期密教

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業冒頭における「前回の内容の確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて読解するものである。秋学期においては『金剛頂経』（『金剛頂一切如来真実摂大乘現証大教王経』）を取り上げる。『金剛頂経』は、真言宗においては『大日経』と並ぶ根本経典である。本経の冒頭において、色究竟天より毘盧遮那を取り囲んで降下した一切如来は、なすべき難行をすべて成し遂げ、深い瞑想状態に入っていまや成道寸前（かつその最後の一步が踏み出せないでいる）一切義成就菩薩に対して、「五相成身観」を為すべきことを解説する。それは、自心の観察に始まり、月輪と五鈷金剛杵を瞑想して、修行者と毘盧遮那との合一を行うための五段階の観法（①通達菩提心②修菩提心③成金剛心④証金剛心⑤仏心円満）である。その根本にあるのは、シンボル(象徴)を操作すること、すなわち、大乘仏教において要求される修行の全過程が、真言の持つ力・権能によって代替が可能とする発想である。このような『金剛頂経』の論理を詳細な解説と共に読んで行く。

成績評価方法

平常点：50%

小テスト：50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する。

授業計画

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 『金剛頂経』における密教の論理 | 9. 曼荼羅としての世界とその構造 |
| 2. 『金剛頂経』における密教の論理 | 10. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 3. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 11. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 4. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 12. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 5. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 13. 現世成就という主題 |
| 6. 仏説の背後にあるもの | 14. 現世成就という主題 |
| 7. 仏説の背後にあるもの | 15. まとめ作業(小テスト) |
| 8. 曼荼羅としての世界とその構造 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講師が準備し、配布する。

＜参考文献＞ 講師が指示する。

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016003100:	智山法儀研究1A(3A)						(中野 泰倫)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火4

到達目標

真言宗智山派に伝承する理趣三昧法要に用いる声明が習得できる

キーワード

智山声明、仏教音楽、実修

事前・事後学習

お次第の手入れ、確認。発声練習。

授業内容

相承するところの博士を以て実際に声明を自ら唱えることによって、仏教、密教を体感することに重点を置く。概説、発声練習より始め、前讃、理趣経、後讃を中心とした理趣三昧法要の声明の指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相解説
2. 声明解説
3. 前讃1
4. 前讃2
5. 前讃3
6. 祭文、三礼、如来唄、表白
7. 唱礼1
8. 唱礼2
9. 理趣経1
10. 理趣経2
11. 後讃1
12. 後讃2
13. 後讃3
14. 通し稽古1
15. 通し稽古2

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『智山法要次第』総本山智積院刊

〈参考文献〉『智山声明大典』大本山川崎大師平間寺刊

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016003200:	智山法儀研究1B(3B)						(中野 泰倫)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火4

到達目標

真言宗智山派に伝承する二箇法要に用いる声明が習得できる

キーワード

智山声明、仏教音楽、実修

事前・事後学習

お次第の手入れ。発声練習。

授業内容

相承するところの博士を以て実際に声明を自ら唱えることによって、仏教、密教を体感することに重点を置く。

唄匿、散華対揚、唱禮、前讃、理趣經(調声)、後讃を中心とした二箇法要の声明の指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相概説
2. 声明概説
3. 祭文、三礼、如来唄、表白
4. 云何唄
5. 散華、對揚1
6. 散華、對揚2
7. 散華、對揚3
8. 唱禮
9. 前讃
10. 理趣經(調声) 1
11. 理趣經(調声) 2
12. 理趣經(調声) 3
13. 後讃
14. 通し稽古
15. 法要実習

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『智山法要次第』総本山智積院刊

〈参考文献〉『智山声明大典』大本山川崎大師平間寺刊

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016004100:	智山法儀研究2A(4A)						(中野 泰倫)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火5

到達目標

着衣、威儀(座法等の所作)、法具の名称、道場、壇の荘厳が習得できる

キーワード

仏道修行の基礎。威儀基礎。法具。法衣。

事前・事後学習

テキストの確認。法具、法衣の名称暗記。着脱実修。

授業内容

法衣の種類及び着方、持物、道具、荘厳等、法要実修に入る前の基礎の習得。

成績評価方法

出席数及び受講態度

課題に対するフィードバック

各項目ごとにフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相概説1
2. 事相概説2
3. 智山概説1
4. 智山概説2
5. 法衣解説1
6. 法衣解説2
7. 法衣着衣、歩行、座相解説
8. 道場荘厳解説1
9. 道場荘厳解説2
10. 道場荘厳解説3
11. 各種道具解説1
12. 各種道具解説2
13. 供養解説1
14. 供養解説2
15. 総括

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『智山法要便覧第一集』真言宗智山派宗務庁刊

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名						(担当教員)
016004200:	智山法儀研究2B(4B)						(中野 泰倫)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	火5

到達目標

二箇法要の実修を繰り返し、法要の所作を習得できる

キーワード

法要準備、所作、実修。

事前・事後学習

お次第の確認。法要準備、次第暗記。

授業内容

二箇法要の解説、実修により、一座の法要の役者の所作指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 法要解説
2. 荘厳
3. 集会
4. 上堂、入堂、着座
5. 奠供、祭文
6. 奠供、祭文2
7. 表白、唄、散華
8. 表白、唄、散華2
9. 前讃、後讃
10. 導師(唱礼)
11. 理趣経(行道)
12. 理趣経(行道)
13. 理趣経(行道)
14. 導師(礼仏、回向)、退堂
15. 法要実修

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『智山法要便覧第一集』真言宗智山派宗務庁刊

〈参考文献〉智山教学研修処二箇法要テキスト(複写)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
016005100:	智山教学史A～真言密教の基礎をまなぶ～	(田中 悠文)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	月3

到達目標

「弘法大師行状絵詞」を読み密教の歴史・教理・実践の基礎を学び、また古文・漢文・古文書の基本を身につけ、日本文化の重層性を知ることができる。弘法大師の生涯を通じアジアの宗教について多角的意見交換ができる。

キーワード

『三教』（儒教・仏教・道教）『三道』（神道・儒教・仏教）『密教』

事前・事後学習

事前学習 授業で紹介した参考書を活用して指定された用語や人物、典籍などについて調べてノートにまとめること 事後学習 毎回講義内容をノートにまとめること

授業内容

南北朝時代の東寺において編纂された『弘法大師行状絵詞』を読み解くことを通じて、弘法大師の生涯をはじめ真言密教の歴史・教理・実践などの各側面を理解し、文字情報のみにとどまらず図像などの媒体を積極的に活用して人物や文化について多角的かつ総合的な理解ができるようになる

成績評価方法

出席率60% ノート提出20% 授業内レポート20%

課題に対するフィードバック

1 提出されたノートにコメントを付す 2 提出された授業内小レポートにコメントを付す
3 課題内容についての短い報告を認める

授業計画

- 『弘法大師行状絵詞』とは① 所蔵者、筆者と絵師、編纂の経緯、伝本など
- 『弘法大師行状絵詞』とは②弘法大師伝の類本と参考書
- 巻一序・第一段・誕生奇瑞 同第二段・童稚奇異
- 三教①同第三段・四王侍衛 同第四段・俗典讃仰
- 三教②同第五段・出家學法
- 三教③巻二・第一段・登壇受戒
- 密教①同第二・聞持修行同第三段・室戸伏竜
- 同第四段・金剛定額
- 同第五段・老嫗授鉢
- 同第六段・虚空書写
- 同第七段・釈迦涌現
- 密教②同第八段・久米感經
- 密教③巻三・第一段・渡海入唐 同第二段・大使替書 同第三段・長安奏聞 同第四段・存問勅使
- 密教④同第五段・青龍受法 巻四・第一段・珍寶懺謝 同第二段・修円護法
- 密教⑤同第三段・図像写經 同第四段・惠果附属 同第五段・石碑建立 同第六段・多生誓約

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講師が適宜用意する。

＜参考文献＞ 続日本の絵巻十・十一「弘法大師行状絵詞上・下」1990,中央公論社
『弘法大師行状絵巻の世界—永遠への飛翔—』2000,東寺宝物館
長谷宝秀編『弘法大師行状絵詞伝』1934,弘法大師一千百年御忌事務局
長谷宝秀編『弘法大師伝全集』1935,六大大新報社

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
016005200:	智山教学史B～真言密教の基礎をまなぶ～					(田中 悠文)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	月3

到達目標

『弘法大師行状絵詞』を読み密教の歴史・教理・実践の基礎を学び、また古文・漢文・古文書の基本を身につけ、日本文化の重層性を知ることができる。弘法大師の生涯を通じアジアの宗教について多角的意見交換ができる。

キーワード

『三教』（儒教・仏教・道教）『三道』（神道・儒教・仏教）『密教』

事前・事後学習

事前学習 授業で紹介した参考書を活用して指定された用語や人物、典籍などについて調べてノートにまとめること 事後学習 毎回講義内容をノートにまとめること

授業内容

南北朝時代の東寺において編纂された『弘法大師行状絵詞』を読み解くことを通じて、弘法大師の生涯をはじめ真言密教の歴史・教理・実践などの各側面を理解し、文字情報のみにとどまらず図像などの媒体を積極的に活用して人物や文化について多角的かつ総合的な理解ができるようになる

成績評価方法

出席率60%ノート提出20%授業内レポート20%

課題に対するフィードバック

1.提出されたノートにコメントを付す2.提出された授業内小レポートにコメントを付す3.課題内容についての短い報告を認める

授業計画

1. 巻四・第七段・宮中壁字同第八段・流水点字
2. 同第九段・苾僧授経
3. 巻五・第一段・三鉢投所 同密教⑥第二段・帰朝奏表 三道①同第三段・灑水生樹
4. 同第四段・久米講経 同第五段・大内書額
5. 三教④同第六段・清涼宗論
6. 巻六・第一段・東大寺蜂 密教⑦同第二段・高雄練行 同第三段・伝教灌頂
7. 密教⑧同第四段・円堂鎮壇 第五段・濁水手水
8. 密教⑨巻七・第一段・南山表請 三道②同第二段・明神衛護 同第三段・高野結界 同第四段・堂塔草創
9. 密教⑩同第五段・心経講讀 巻八・第一段・東寺勅給三道③同第二段・八幡鎮座 三道④同第三段・稻荷來影
10. 密教⑪三道⑤同第四段・神泉祈雨 巻九・第一段・講堂起立同第二段・舍利灌浴 同第三段・室生修練
11. 密教⑫巻十・第一段・正月修法
12. 同第二段・門人遺誠
13. 同第三段・真影凶画
14. 同第四段・南山入定
15. 巻十一・第二段・官位追贈 同第三段・大師諡号

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 講師が適宜用意する。
- ＜参考文献＞ 続日本の絵巻10.11 『弘法大師行状絵詞上・下』 1990,中央公論社
『弘法大師行状絵巻の世界—永遠への飛翔—』 2000,東寺宝物館,
長谷宝秀編『弘法大師行状絵詞伝』 1934,弘法大師一千百年御忌事務局,
長谷宝秀編『弘法大師伝全集』 1935,六大新報社

その他